

## 6.11. 植物



## 6.11 植物

### 6.11.1 現況調査

#### (1) 調査内容

調査内容は、表 6.11.1-1 に示すとおりとした。

表 6.11.1-1 調査内容（植物）

調査内容	
植物	①植物相の状況（シダ植物，種子植物） ②植生の状況 ③重要な植物種及び植物群落の分布，生育の状況及び生育環境の状況

#### (2) 調査方法

##### (7) 既存資料調査

調査方法は、表 6.11.1-2 に示すとおりとした。

表 6.11.1-2 調査方法（植物：既存資料調査）

調査内容	調査方法
①植物相の状況（シダ植物，種子植物） ②植生の状況 ③重要な植物種及び植物群落の分布，生育の状況及び生育環境の状況	調査方法は、既存資料により植物相及び植物群落の分布，生育地の情報を収集し，整理するものとした。

##### (4) 現地調査

調査方法は、表 6.11.1-3 に示すとおりとした。

表 6.11.1-3 調査方法（植物：現地調査）

調査内容	調査方法
①植物相の状況（シダ植物，種子植物）	調査地域内を網羅するように踏査し，生育種を確認する。現地で同定が困難な植物については標本として持ち帰り，後日室内で同定する。
②植生の状況	空中写真判読及び現地踏査により相観的な植生区分を行い，各植生が典型的に発達する群落内にコドラートを設置し，植物社会学的手法に基づく植生調査を行う。
③重要な植物種及び植物群落の分布，生育の状況及び生育環境の状況	植物相及び植生調査の結果から，重要な植物種及び植物群落の分布，生育の状況及び生育環境の状況について整理する。

### (3) 調査地域等

#### (7) 既存資料調査

調査地域は、「第3章 地域特性（対象事業実施区域及びその周囲の概況）」における調査地域と同様とした。

#### (イ) 現地調査

調査地域等は、表 6.11.1-4、図 6.11.1-1 及び図 6.11.1-2 に示すとおりである。

表 6.11.1-4 調査地域等（植物）

調査内容	調査地域等
①植物相の状況（シダ植物、種子植物） ②植生の状況 ③重要な植物種及び植物群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況	調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺約250mの範囲とする。調査ルートは、調査地域の植物の生育環境を網羅するよう現地で設定する。植生調査地点は、各植生が典型的に発達する群落内に現地で複数設定する。

### (4) 調査期間等

#### (7) 既存資料調査

調査期間は、入手可能な最新年の資料に示される時期とした。

#### (イ) 現地調査

調査期間は、表 6.11.1-5 に示すとおりである。

表 6.11.1-5 調査期間（植物：現地調査）

調査内容	調査方法	調査時期	調査期間
①植物相の状況	踏査調査	春季	令和5年5月11日(木)～令和5年5月12日(金)
		初夏	令和5年7月4日(火)～令和5年7月5日(水)
		夏季	令和5年8月3日(木)～令和5年8月4日(金)
		秋季	令和5年10月12日(木)～令和5年10月13日(金)
②植生の状況	踏査調査 コドラート調査	夏季	令和5年8月22日(火)～令和5年8月23日(水)
③重要な植物種及び植物群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況			上記と同様。

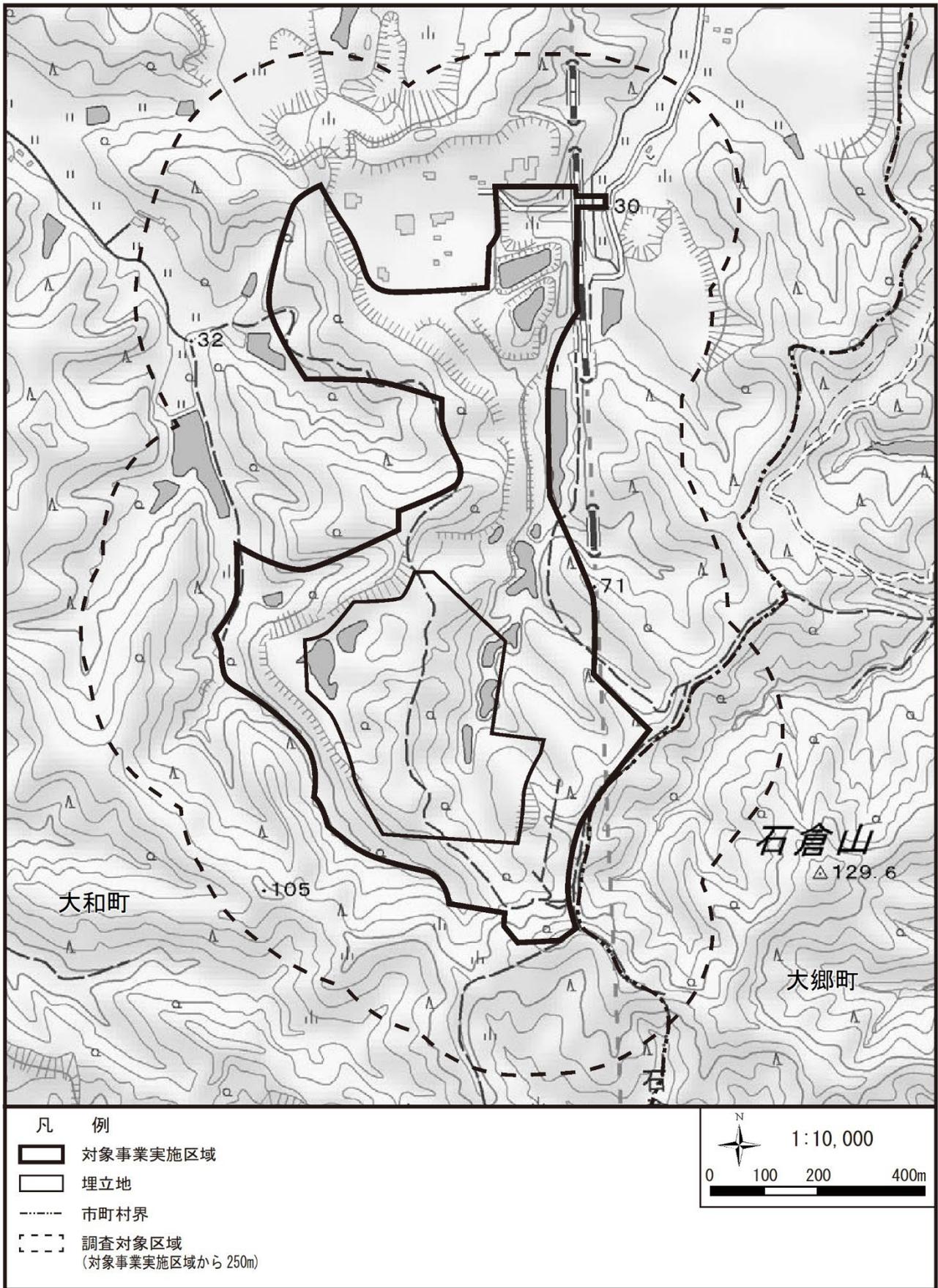


図 6.11.1-1 植物調査地域図 (現地調査)

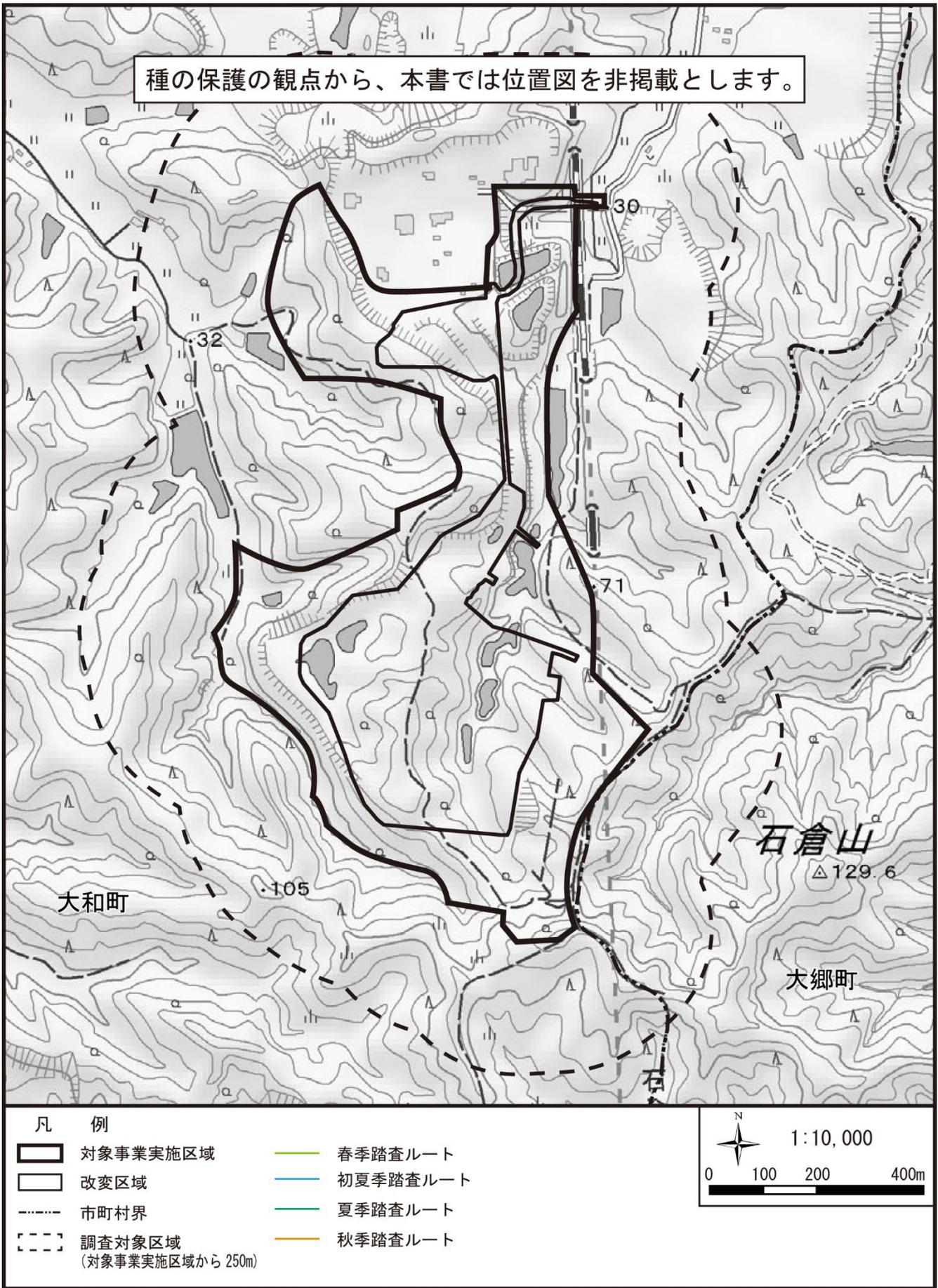


図 6.11.1-2 任意踏査ルート図 (植物)

(5) 調査結果

(7) 既存資料調査

対象事業実施区域及びその周辺の植物相及び重要な植物種の状況は、「第 3 章 地域特性（対象事業実施区域及びその周囲の概況） 3.1 自然的状況 3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況」に示すとおりである。

(4) 現地調査

① 植物相の状況

植物の生育状況は表 6.11.1-6、確認された植物リストは表 6.11.1-7(1)～(18)に示すとおりである。

現地調査の結果、125 科 688 種（春季では 96 科 342 種、初夏季では 110 科 488 種、夏季では 114 科 461 種、秋季では 106 科 439 種）の植物が確認された。

環境別にみると、対象事業実施区域内では、春季では 77 科 218 種、初夏季では 84 科 302 種、夏季では 65 科 165 種、秋季では 81 科 265 種が確認された。事業実施区域外では、春季では 87 科 269 種、初夏季では 105 科 415 種、夏季では 112 科 425 種、秋季では 103 科 375 種が確認された。どの調査時期も対象事業実施区域内より対象事業実施区域外で多くの種が確認されている。対象事業実施区域内は外来種草原や、造成地等が全体の 4 割以上を占めており、人為的影響を受けている範囲が大きい。対して対象事業実施区域外は樹林帯や水田、畑、農業水路等多くの生育環境があったため、確認種数は多くなったと考えられる。

季節別にみると、春季には、カタクリ、サクラスミレ、ナズナ、ヤエムグラ、エゾタンポポ等が確認された。初夏季には、カサスゲ、アズマスゲ等のスゲ類、ジガバチソウやコケイラン等のラン科植物等が確認された。夏季には、コオニユリやクルマユリ等のユリ科植物が確認された。秋季には、フユノハナワラビ、オギやチカラシバ等のイネ科、イヌコウジュ等が確認された。また、キク科、イネ科及びバラ科の植物はどの時期にも確認された。

表 6.11.1-6 生育状況（植物：現地調査）

区分		春季		初夏季		夏季*		秋季		計		
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	
シダ植物		11	31	11	36	10	34	12	40	12	47	
種子植物	裸子植物	2	4	3	6	3	5	3	5	3	6	
	被子植物	基部被子植物	4	5	5	6	5	6	5	6	6	7
		単子葉植物	17	62	19	106	20	103	17	95	21	162
		真正双子葉植物	62	240	72	334	76	313	69	293	83	466
計		96 科	342 種	110 科	488 種	114 科	461 種	106 科	439 種	125 科	688 種	

※：夏季の調査結果は、植生調査時の確認種も含めた。

表 6.11.1-7(1) 確認種 (植物: 現地調査) (1/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期				
				春季	初夏	夏季	秋季	
1	ヒカゲノカズラ	トウゲシハ <sup>レ</sup> (広義)	<i>Huperzia serrata</i>	○	○	○	○	
2	トクサ	スキナ	<i>Equisetum arvense</i>	○	○	○	○	
3		イヌスキナ	<i>Equisetum palustre</i>				○	
4	ハナヤスリ	フコノハワラビ <sup>レ</sup>	<i>Botrychium ternatum</i> var. <i>ternatum</i>				○	
5		ナツノハワラビ <sup>レ</sup>	<i>Botrychium virginianum</i>	○				
6	ゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>	○	○	○	○	
7		ヤマトリゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> var. <i>fokiense</i>			○	○	
8	コバノイシカグマ	イヌシダ <sup>レ</sup>	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>	○			○	
9		ワラビ <sup>レ</sup>	<i>Pteridium aquilinum</i> ssp. <i>japonicum</i>	○	○	○	○	
10	イノモトソウ	イワカネソウ	<i>Coniogramme intermedia</i>		○	○	○	
11		イワカネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>			○		
12		オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>		○		○	
13	チャセンシダ <sup>レ</sup>	トラノオシダ <sup>レ</sup>	<i>Asplenium incisum</i>	○	○		○	
14		コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i>	○	○		○	
15	ヒメシダ <sup>レ</sup>	ハリカネソウ	<i>Thelypteris japonica</i>		○	○	○	
16		ヤワラシダ <sup>レ</sup>	<i>Thelypteris laxa</i>			○	○	
17		ヒメシダ <sup>レ</sup>	<i>Thelypteris palustris</i>	○	○	○	○	
18		ミヅシダ <sup>レ</sup>	<i>Thelypteris pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i>	○	○	○	○	
19	コウヤワラビ <sup>レ</sup>	イヌカネソウ	<i>Onoclea orientalis</i>	○	○	○	○	
20		コウヤワラビ <sup>レ</sup>	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>	○	○	○	○	
21		クサツテツ	<i>Onoclea struthiopteris</i>				○	
22	シシガシラ	シシガシラ	<i>Blechnum niponicum</i>	○	○	○	○	
23	メシダ <sup>レ</sup>	イヌワラビ <sup>レ</sup>	<i>Anisocampium niponicum</i>		○	○	○	
24		カラクサイヌワラビ <sup>レ</sup>	<i>Athyrium clivicola</i>	○	○	○	○	
25		サトメシダ <sup>レ</sup>	<i>Athyrium deltoideifrons</i>		○	○		
26		ホソバ <sup>レ</sup> イヌワラビ <sup>レ</sup>	<i>Athyrium iseanum</i> var. <i>iseanum</i>		○		○	
27		ヤマイヌワラビ <sup>レ</sup>	<i>Athyrium vidalii</i>		○		○	
28		ヘビノネコサ <sup>レ</sup>	<i>Athyrium yokoscense</i>	○	○	○	○	
29		ホソバシシガシラ <sup>レ</sup>	<i>Deparia conilii</i>	○	○	○	○	
30		シシガシラ <sup>レ</sup>	<i>Deparia japonica</i>		○	○	○	
31		ミヤマシシガシラ <sup>レ</sup> (狭義)	<i>Deparia pycnosora</i> var. <i>pycnosora</i>	○		○		
32		キヨタキシダ <sup>レ</sup>	<i>Diplazium squamigerum</i>	○	○	○	○	
33		オンシダ <sup>レ</sup>	ホソバナライシダ <sup>レ</sup>	<i>Arachniodes borealis</i>	○	○	○	○
34			リョウメンシダ <sup>レ</sup>	<i>Arachniodes standishii</i>	○	○	○	○
35	ヤブツテツ		<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>fortunei</i>	○	○	○	○	
36	ヤマイトチシダ <sup>レ</sup>		<i>Dryopteris bissetiana</i>	○	○			
37	オンシダ <sup>レ</sup>		<i>Dryopteris crassirhizoma</i>	○	○	○	○	
38	ベニシダ <sup>レ</sup>		<i>Dryopteris erythrosora</i>	○	○	○	○	
39	クマワラビ <sup>レ</sup>		<i>Dryopteris lacera</i>	○	○	○	○	
40	アイノコクマワラビ <sup>レ</sup>		<i>Dryopteris x mituii</i>				○	

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(2) 確認種 (植物: 現地調査) (2/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
41	オンタ	ミヤマヘニシダ	<i>Dryopteris monticola</i>	○	○	○	○
42		ミヤマイトシダ	<i>Dryopteris sabaei</i>	○	○	○	○
43		オクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>	○	○	○	
44		イワシロイノテ	<i>Polystichum ovatopaleaceum</i> var. <i>coraiense</i>		○	○	○
45		イノテ	<i>Polystichum polyblepharon</i>	○			
46		サカゲイノテ	<i>Polystichum retrosopaleaceum</i>	○	○	○	○
47		ジューモンジシダ	<i>Polystichum tripterum</i>	○	○	○	○
48	マツ	モミ	<i>Abies firma</i>	○	○	○	○
49		アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	○	○	○	○
50	ヒノキ	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	○	○	○	○
51		スキ	<i>Cryptomeria japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	○
52	イチイ	イヌカヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i>		○		
53		カヤ	<i>Torreya nucifera</i> var. <i>nucifera</i>		○	○	○
54	マツブサ	マツブサ	<i>Schisandra repanda</i>		○		○
55	センリョウ	フタリスズカ	<i>Chloranthus serratus</i>			○	○
56	トクダミ	トクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	○	○	○	○
57	ウマノスズクサ	トウゴクサイシン	<i>Asarum tohokuense</i>	○	○	○	
58	モクレン	コフシ	<i>Magnolia kobus</i>	○	○	○	○
59		ホオノキ	<i>Magnolia obovata</i>	○	○	○	○
60	クスノキ	オオバクロモジ	<i>Lindera umbellata</i> var. <i>membranacea</i>	○	○	○	○
61	ショウブ	ショウブ	<i>Acorus calamus</i>	○		○	○
62		セキショウ	<i>Acorus gramineus</i> var. <i>gramineus</i>		○		
63	サトイモ	コウライテンナンショウ	<i>Arisaema peninsulae</i>	○	○		
64		ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> ssp. <i>urashima</i>		○		
65		アオウキクサ	<i>Lemna aoukikusa</i> ssp. <i>aoukikusa</i>			○	
66		コウキクサ	<i>Lemna minor</i>		○	○	
67	オモダカ	ハラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i>	○	○	○	○
68		オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>		○	○	○
69	ヒルムシロ	イトモ	<i>Potamogeton berchtoldii</i>			○	○
70		ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i>		○	○	○
71	キンコウカ	ノギラン	<i>Metanarthecium luteoviride</i>	○	○	○	○
72	ヤマノイモ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>		○	○	○
73		ウチリトコロ	<i>Dioscorea nipponica</i>		○		○
74		オニトコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	○	○	○	○
75	シュロソウ	ショウジョウバカマ	<i>Heloniopsis orientalis</i> var. <i>orientalis</i>	○	○	○	○
76		エンレイソウ	<i>Trillium apetalon</i>	○	○		
77	イヌサフラン	ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>	○	○		
78		チゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>	○	○	○	○
79	サルトリイバラ	サルトリイバラ	<i>Smilax china</i> var. <i>china</i>	○	○	○	○
80		タチソウ	<i>Smilax nipponica</i>	○	○	○	○

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(3) 確認種 (植物: 現地調査) (3/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期				
				春季	初夏	夏季	秋季	
81	サルトリイバラ	シオテ	<i>Smilax riparia</i>		○	○	○	
82		ヤマカシユウ	<i>Smilax sieboldii</i>	○	○	○	○	
83	ユリ	オウハユリ	<i>Cardiocrinum cordatum</i> var. <i>glehnii</i>	○				
84		カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	○				
85		ヤマユリ	<i>Lilium auratum</i>	○	○	○	○	
86		コオニユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> f. <i>pseudotigrinum</i>			○	○	
87		クルマユリ	<i>Lilium medeoloides</i>		○	○	○	
88		ヤマシノホトトギス	<i>Tricyrtis affinis</i>	○	○	○	○	
89		ラン	キンセイヤン	<i>Calanthe nipponica</i>	○	○	○	○
-			エビネ属	<i>Calanthe</i> sp.	○	○	○	○
90	サイハイラン		<i>Cremastra variabilis</i>	○	○	○	○	
91	シユンラン		<i>Cymbidium goeringii</i>	○	○	○	○	
92	アカボノシュスラン		<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>laevis</i>		○		○	
93	ミヤマウスラ		<i>Goodyera schlechtendaliana</i>	○	○	○	○	
94	ジカバチソウ		<i>Liparis krameri</i>		○			
95	クモキリソウ		<i>Liparis kumokiri</i>		○	○	○	
96	コケイラン		<i>Oreorchis patens</i>		○			
97	ネシバナ		<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>		○	○		
98	アヤメ		キシヨウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	○			○
99			ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>		○		
100	ススキノキ		ヤブカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>		○	○	
101	ヒカシバナ		キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>			○	
102	クサスキカスラ	キンカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i>			○		
103		オオバギボウシ	<i>Hosta sieboldiana</i>		○	○	○	
104		コバギボウシ	<i>Hosta sieboldii</i>	○	○	○	○	
105		ヒメヤブラン	<i>Liriope minor</i>			○	○	
106		マイヅルソウ	<i>Maianthemum dilatatum</i>		○			
107		ユキザサ	<i>Maianthemum japonicum</i>	○	○	○		
108		ジヤノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>	○	○	○	○	
109		オオバジヤノヒゲ	<i>Ophiopogon planiscapus</i>		○	○	○	
110		ミヤマナルコユリ	<i>Polygonatum lasianthum</i>	○	○	○	○	
111		アマトコロ	<i>Polygonatum odoratum</i> var. <i>pluriflorum</i>			○		
112		オモト	<i>Rohdea japonica</i>		○	○		
113		ツクサ	ツクサ	<i>Commelina communis</i>	○	○	○	○
114	イボクサ		<i>Murdannia keisak</i>		○	○	○	
115	ミスアオイ	コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i>			○		
116	ガマ	ヒメガマ	<i>Typha domingensis</i>		○	○	○	
117		ガマ	<i>Typha latifolia</i>	○	○	○	○	
118	イグサ	イグサ	<i>Juncus decipiens</i>	○	○	○	○	
119		タチコウガ イゲキショウ	<i>Juncus krameri</i>	○	○	○	○	
120		コウガ イゲキショウ	<i>Juncus prismatocarpus</i> ssp. <i>leschenaultii</i>		○	○		

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(4) 確認種 (植物：現地調査) (4/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期				
				春季	初夏	夏季	秋季	
121	イグサ	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>		○		○	
122		スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>	○				
123		スカボシソウ	<i>Luzula plumosa</i>	○				
124	カヤツリグサ	ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i> ssp. <i>yagara</i>			○	○	
125		エナシヒゴクサ	<i>Carex aphanolepis</i>		○	○		
126		メアオスゲ	<i>Carex candolleana</i>	○				
127		シヨウロウスケ	<i>Carex capricornis</i>		○	○		
128		ミヤマシラスゲ	<i>Carex confertiflora</i>		○			
129		ヒメカンスゲ	<i>Carex conica</i>	○	○			
130		カサスケ	<i>Carex dispalata</i>		○		○	
131		オクノカンスゲ	<i>Carex foliosissima</i>		○		○	
132		カワラスゲ	<i>Carex incisa</i>	○	○			
133		ヒコクサ	<i>Carex japonica</i>		○			
134		ヒカゲスケ	<i>Carex lanceolata</i>	○		○	○	
135		アズマスゲ	<i>Carex lasiolepis</i>		○	○	○	
136		アオスケ	<i>Carex leucochlora</i>	○	○			
137		コシユズスケ	<i>Carex macroglossa</i>	○	○			
138		コウソ	<i>Carex maximowiczii</i>		○			
139		ミヤマカンスゲ	<i>Carex multifolia</i>	○		○		
140		タカネマスカサ	<i>Carex planata</i>		○			
141		イトアオスケ	<i>Carex puberula</i>	○				
142		タカネソウ	<i>Carex siderosticta</i>	○	○	○	○	
143		ミチノクホンモンジスケ	<i>Carex stenostachys</i> var. <i>cuneata</i>	○	○			
-			スケ属	<i>Carex</i> sp.			○	
144		チャカヤツリ	<i>Cyperus amuricus</i>				○	
145		ヒメク	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leirolepis</i>				○	
146		タマカヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>			○	○	
147		ココメカヤツリ	<i>Cyperus iria</i>		○	○	○	
148		カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>				○	
149		テツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> var. <i>tentsuki</i>			○		
150		ヒテリコ	<i>Fimbristylis littoralis</i>		○		○	
151	ヒンシガヤツリ	<i>Lipocarpa microcephala</i>			○			
152	ホタルイ	<i>Schoenoplectiella hotarui</i>			○	○		
153	カンガレイ	<i>Schoenoplectiella triangulata</i>			○	○		
154	フトイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>	○	○	○			
155	サンカクイ	<i>Schoenoplectus triqueter</i>		○	○	○		
156	アブラガヤ	<i>Scirpus wichurae</i>		○	○	○		
157	イネ	ヤマスカボ	<i>Agrostis clavata</i>			○		
158		スカボ	<i>Agrostis clavata</i> var. <i>nukabo</i>		○		○	
159		コスカグサ	<i>Agrostis gigantea</i>		○	○	○	
160		ヒメコスカグサ	<i>Agrostis valvata</i>	○				

※：種名、学名及び分類順等は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」（国土交通省）に準拠した。

表 6.11.1-7(5) 確認種 (植物: 現地調査) (5/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
161	イネ	スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i> var. <i>amurensis</i>	○	○		
162		オオスズメノテッポウ	<i>Alopecurus pratensis</i>		○		
163		メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	○	○	○	○
164		ハルカヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	○	○	○	
165		コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>		○		○
166		ノガリヤス	<i>Calamagrostis brachytricha</i> var. <i>brachytricha</i>		○		○
167		ヤマアワ	<i>Calamagrostis epigeios</i>		○	○	
168		カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>	○	○	○	○
169		メシハ	<i>Digitaria ciliaris</i>			○	○
170		アキメシハ	<i>Digitaria violascens</i>			○	○
171		アブラススキ	<i>Eccoilopus cotulifer</i>			○	
172		イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>			○	○
173		オシハ	<i>Eleusine indica</i>			○	○
174		アオカモジグサ	<i>Elymus racemifer</i>		○	○	
175		カモジグサ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>transiens</i>		○	○	
176		シタレスズカヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		○		○
177		カセグサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>		○	○	○
178		コスズカヤ	<i>Eragrostis minor</i>			○	○
179		ニワホコリ	<i>Eragrostis multicaulis</i>			○	○
180		トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>		○		
181	オウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i>		○			
182	チカヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>	○	○	○	○	
183	チコササ	<i>Isachne globosa</i>			○	○	
184	アソキ	<i>Leersia japonica</i>			○		
185	ササカヤ	<i>Leptatherum japonicum</i>		○	○	○	
186	ネズミキ	<i>Lolium multiflorum</i>		○			
187	ホソムキ	<i>Lolium perenne</i>		○	○		
188	アシボソ	<i>Microstegium vimineum</i>				○	
189	イフキヌカホ	<i>Milium effusum</i>	○				
190	オキ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>				○	
191	スキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	○	○	○	○	
192	コチミササ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	○	○	○	○	
193	ケチミササ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>undulatifolius</i>		○	○	○	
194	イネ	<i>Oryza sativa</i>			○		
195	ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>				○	
196	オクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>			○	○	
197	スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>			○	○	
198	チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>				○	
199	クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>	○	○	○	○	
200	ヨシ	<i>Phragmites australis</i>	○	○	○	○	

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和5年度版-」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(6) 確認種 (植物：現地調査) (6/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
201	イネ	アスマササ	<i>Pleioblastus chino</i>	○	○	○	○
202		ミツイチョツキ	<i>Poa acroleuca</i>	○			
203		スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	○	○		○
204		オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>	○	○		
205		ヒエカエリ	<i>Polypogon fugax</i>	○			
206		ヤダケ	<i>Pseudosasa japonica</i>		○		
207		ヌメリグサ	<i>Sacciolepis spicata</i> var. <i>oryztorum</i>			○	
208		オオバササ	<i>Sasa megalophylla</i>	○			
209		ミヤコササ	<i>Sasa nipponica</i>				○
210		チマキササ	<i>Sasa palmata</i>			○	
211		クマイササ	<i>Sasa senanensis</i>		○	○	○
212		ミヤマササ	<i>Sasa septentrionalis</i> var. <i>septentrionalis</i>	○			
213		アスマササ	<i>Sasaella ramosa</i>		○	○	○
214		オウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i>	○	○	○	○
215		アキノエノコクグサ	<i>Setaria faberi</i>		○	○	○
216		キンエノコ	<i>Setaria pumila</i>		○	○	○
217		オオエノコ	<i>Setaria x pycnocomma</i>			○	
218		エノコクグサ	<i>Setaria viridis</i> var. <i>minor</i>		○	○	○
219		カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>				○
220		ナギナタカヤ	<i>Vulpia myuros</i> var. <i>myuros</i>		○		○
221		マコモ	<i>Zizania latifolia</i>			○	
222		シバ	<i>Zoysia japonica</i>	○	○	○	○
-		イネ科	Poaceae sp.			○	
223	ケシ	クサノオウ	<i>Chelidonium majus</i> ssp. <i>asiaticum</i>	○	○	○	○
224		ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>	○		○	
225	アケビ	アケビ	<i>Akebia quinata</i>	○	○	○	○
226		ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i> ssp. <i>trifoliata</i>	○	○	○	○
227	ツツラフジ	アオツツラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>	○	○	○	○
228	メギ	メギ	<i>Berberis thunbergii</i>	○	○	○	
229		ルイヨウボタン	<i>Caulophyllum robustum</i>	○	○	○	○
230		イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>thunbergianum</i>	○	○	○	○
231		ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	○	○		○
232	キンポウゲ	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i> var. <i>flaccida</i>	○			
233		オオバショウマ	<i>Cimicifuga japonica</i> var. <i>macrophylla</i>	○		○	
234		サラシナショウマ	<i>Cimicifuga simplex</i>		○		
235		ホトタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>apiifolia</i>	○	○	○	
236		コホトタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>biterinata</i>		○	○	
237		クサボタン	<i>Clematis stans</i> var. <i>stans</i>	○			
238		センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>			○	
239		トリカゲタハシヨウヅル	<i>Clematis tosaensis</i>	○	○	○	○
240			ウマノアシカタ	<i>Ranunculus japonicus</i>	○		○

※：種名、学名及び分類順等は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和5年度版-」（国土交通省）に準拠した。

表 6.11.1-7(7) 確認種 (植物: 現地調査) (7/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
241	キンポウゲ	キツネノホトシ	<i>Ranunculus silerifolius</i>	○	○	○	○
242		アキカマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>	○	○	○	○
243	アワフキ	アワフキ	<i>Meliosma myriantha</i>		○	○	○
244	マンサク	オオバマンサク	<i>Hamamelis japonica</i> var. <i>megalophylla</i>				○
245	ユキノシタ	チタケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>		○	○	○
246		トリアシショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>congesta</i>	○	○	○	○
247		アカショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>		○		
248		ネノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>	○			
249		ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>	○		○	○
250	ヘンケイソウ	コモチマンネンゲサ	<i>Sedum bulbiferum</i>		○		
251		ツルマンネンゲサ	<i>Sedum sarmentosum</i>		○	○	○
252	タコノアシ	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>			○	○
253	アリノトウグサ	アリノトウグサ	<i>Gonocarpus micranthus</i>	○	○	○	
254	ブドウ	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>	○	○	○	○
255		ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>		○	○	○
256		ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>		○	○	○
257		ヤマブドウ	<i>Vitis coignetiae</i>			○	
258		サンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i>			○	
259	マメ	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>		○	○	○
260		ネムキ	<i>Albizia julibrissin</i> var. <i>julibrissin</i>		○	○	○
261		イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>	○	○		
262		ヤブマメ	<i>Amphicarpaea edgeworthii</i>		○	○	○
263		ホトイモ	<i>Apios fortunei</i>		○	○	○
264		アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>			○	○
265		ノササゲ	<i>Dumasia truncata</i>		○	○	○
266		ツルマメ	<i>Glycine max</i> ssp. <i>soja</i>		○	○	○
267		ヌスビトハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>japonicum</i>		○	○	○
268		ヤブハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>mandshuricum</i>				○
269		マルバヤハズソウ	<i>Kummerowia stipulacea</i>			○	○
270		ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>	○	○	○	○
271		ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i> var. <i>bicolor</i>	○	○	○	○
272		メトハギ	<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>cuneata</i>	○	○	○	○
273		マルバハギ	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i>				○
274		ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i> var. <i>pilosa</i>		○	○	
275		ミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i> ssp. <i>japonicus</i>		○	○	
276		コマツブウマゴヤシ	<i>Medicago lupulina</i>		○		
277		クズ	<i>Pueraria lobata</i> ssp. <i>lobata</i>	○	○	○	○
278		ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>	○	○	○	
279	クララ	<i>Sophora flavescens</i>		○	○		
280	コマツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>	○	○	○		

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(8) 確認種 (植物: 現地調査) (8/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
281	マメ	ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>	○	○	○	○
282		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	○	○	○	○
283		スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>	○			
284		ヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> ssp. <i>nigra</i>	○	○		○
285		カスマグサ	<i>Vicia tetrasperma</i>	○			
286		ナンテンハギ	<i>Vicia unijuga</i>		○		
287		ヤブツルアズキ	<i>Vigna angularis</i> var. <i>nipponensis</i>		○	○	○
288		フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	○	○	○	○
289		クロウメモドキ	クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>	○	○	○
290	ケンボナシ		<i>Hovenia dulcis</i>			○	
291	クロウメモドキ		<i>Rhamnus japonica</i> var. <i>decipiens</i>		○		○
292	ニレ	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	○	○	○	○
293	アサ	エゾエノキ	<i>Celtis jessoensis</i>		○	○	○
294		エノキ	<i>Celtis sinensis</i>			○	
295		カラハナソウ	<i>Humulus lupulus</i> var. <i>cordifolius</i>	○	○	○	○
296		カナムグラ	<i>Humulus scandens</i>	○	○	○	○
297	クリ	ヒメコウゾ	<i>Broussonetia monoica</i>	○	○	○	○
298		ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	○	○	○	○
299	イラクサ	ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>			○	○
300		ヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>		○	○	○
301		アカリ	<i>Boehmeria silvestrii</i>	○	○	○	○
302		ムカゴイラクサ	<i>Laportea bulbifera</i>			○	○
303		カテンソウ	<i>Nanocnide japonica</i>		○		
304		ミズ	<i>Pilea hamaoi</i>			○	
305		アオミス	<i>Pilea pumila</i>			○	○
306		バラ	ヒメキンミズヒキ	<i>Agrimonia nipponica</i>			○
307	キンミズヒキ		<i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	○
308	サイフリボク		<i>Amelanchier asiatica</i>		○	○	
309	アズキナシ		<i>Aria alnifolia</i>		○	○	○
310	ウラジロノキ		<i>Aria japonica</i>	○	○	○	○
311	ヤマブキシヨウマ		<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>kamtschaticus</i>		○		
312	チョウジザクラ		<i>Cerasus apetala</i> var. <i>tetsuyae</i>		○		
313	エドヒガン		<i>Cerasus itosakura</i> f. <i>ascendens</i>	○	○		
314	ヤマザクラ		<i>Cerasus jamasakura</i> var. <i>jamasakura</i>	○	○	○	○
315	カスミザクラ		<i>Cerasus leveilleana</i>	○	○	○	○
316	ダikonソウ		<i>Geum japonicum</i>	○	○	○	○
317	ズミ		<i>Malus toringo</i> var. <i>toringo</i>		○	○	
318	コメツギ		<i>Neillia incisa</i>	○	○	○	○
319	イサザクラ		<i>Padus buergeriana</i>				○
320	ウラミスザクラ		<i>Padus grayana</i>	○	○	○	○

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(9) 確認種 (植物: 現地調査) (9/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
321	バラ	ヒメヘビイチゴ	<i>Potentilla centigrana</i>	○	○	○	○
322		キシムシロ	<i>Potentilla fragarioides</i>		○		
323		ミツハツチケリ	<i>Potentilla freyniana</i>	○	○		○
324		ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebiichigo</i>	○	○	○	○
325		ヤブヘビイチゴ	<i>Potentilla indica</i>	○	○	○	○
326		カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	○		○	○
327		ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i> var. <i>multiflora</i>	○	○	○	○
328		クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>	○	○	○	○
329		ニカイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>	○	○	○	○
330		モミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i>	○	○	○	○
331		ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	○	○	○	○
332		ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>	○	○	○	○
333		ブナ	クリ	<i>Castanea crenata</i>	○	○	○
334	ブナ		<i>Fagus crenata</i>				○
335	クヌギ		<i>Quercus acutissima</i>			○	
336	コナラ		<i>Quercus serrata</i> ssp. <i>serrata</i> var. <i>serrata</i>	○	○	○	○
337	クルミ	オニクルミ	<i>Juglans mandshurica</i> var. <i>sachalinensis</i>			○	
338	カバノキ	ヤマハノキ	<i>Alnus hirsuta</i> f. <i>sibirica</i>	○	○		○
339		サウシバ	<i>Carpinus cordata</i> var. <i>cordata</i>		○		○
340		アカシテ	<i>Carpinus laxiflora</i>	○	○	○	○
341		イヌシテ	<i>Carpinus tschonoskii</i>	○	○	○	○
342		ハシバミ	<i>Corylus heterophylla</i> var. <i>heterophylla</i>	○	○	○	○
343		ツバハシバミ	<i>Corylus sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	○	○	○	○
344		アサダ	<i>Ostrya japonica</i>			○	
345	ウリ	アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i> var. <i>pentaphyllum</i>	○	○	○	○
346		アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>		○	○	○
347		キカラスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> var. <i>japonica</i>		○	○	
348		スズメウリ	<i>Zehneria japonica</i>		○	○	○
349	ニシキギ	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> var. <i>orbiculatus</i>	○	○	○	○
350		オニツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> var. <i>strigillosus</i>			○	
351		ニシキギ	<i>Euonymus alatus</i>	○	○		
352		コマユミ	<i>Euonymus alatus</i> f. <i>ciliatodentatus</i>	○	○	○	○
353		ツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>fortunei</i>	○	○	○	○
354		ツリバナ	<i>Euonymus oxyphyllus</i>	○	○	○	○
355		カントウマユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i> var. <i>sanguineus</i>		○	○	
356		ウメバチソウ	<i>Parnassia palustris</i> var. <i>palustris</i>		○		○
357	カタバミ	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	○	○	○	○
358		オウタチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i>	○	○	○	○
359		エゾタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i>		○	○	
360	トウダイクサ	エニキクサ	<i>Acalypha australis</i>		○	○	○

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(10) 確認種 (植物: 現地調査) (10/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
361	トウダイクサ	コニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>		○	○	○
362		オニシキソウ	<i>Euphorbia nutans</i>		○	○	○
363		アカメカシ	<i>Mallotus japonicus</i>	○	○	○	○
364		シラキ	<i>Neoshirakia japonica</i>		○		○
365	ヤナギ	ヤマナラシ	<i>Populus tremula</i> var. <i>sieboldii</i>	○	○		○
366		ハッコヤナギ	<i>Salix caprea</i>	○	○	○	○
367		シロヤナギ	<i>Salix dolichostyla</i>	○	○	○	○
368		イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i>	○	○	○	○
369		クサヤナギ	<i>Salix triandra</i>	○	○	○	○
370		オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i>	○	○	○	○
371		キツネヤナギ	<i>Salix vulpina</i> ssp. <i>vulpina</i>	○	○	○	
372	スミレ	クサハシメ	<i>Viola grypceras</i> var. <i>grypceras</i>	○	○	○	○
373		サクラスミレ	<i>Viola hirtipes</i>	○			
374		アオイスミレ	<i>Viola hondoensis</i>		○		
375		スミレ	<i>Viola mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>	○	○		
376		アメリカスミレサイシン	<i>Viola sororia</i>	○			
377		ヒナスミレ	<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>takedana</i>		○		
378		ツボスミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>verecunda</i>	○	○	○	○
379		マキノスミレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>makinoi</i>	○	○	○	○
380		オトギリソウ	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>		○	○
381	コケオトギリ		<i>Hypericum laxum</i>		○	○	
382	コマバオトギリ		<i>Hypericum perforatum</i> ssp. <i>chinense</i>		○	○	
383	フウロソウ	ゲンシヨウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	○	○	○	○
384	ミソハギ	ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>				○
385		ヒシ	<i>Trapa jeholensis</i>		○	○	○
386	アカバナ	クサハシメ	<i>Circaea erubescens</i>		○		
387		ミスミソウ	<i>Circaea mollis</i>			○	
388		アカバナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i>		○	○	
389		メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>	○	○	○	○
390		オオマツヨイグサ	<i>Oenothera glazioviana</i>		○		
391	ミツバウツギ	ミツバウツギ	<i>Staphylea bumalda</i>	○	○	○	○
392	キフシ	キフシ	<i>Stachyurus praecox</i>			○	
393	ウルシ	スルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>chinensis</i>	○	○	○	○
394		ツタウルシ	<i>Toxicodendron orientale</i> ssp. <i>orientale</i>	○	○	○	○
395		ヤマウルシ	<i>Toxicodendron trichocarpum</i>	○	○	○	○
396	ムクロシ	オオモミジ	<i>Acer amoenum</i> var. <i>amoenum</i>	○		○	○
397		ヤマモミジ	<i>Acer amoenum</i> var. <i>matsumurae</i>	○	○	○	○
398		チドリノキ	<i>Acer carpinifolium</i>				○
399		ヒトツバカエテ	<i>Acer distylum</i>				○
400		ハウチワカエテ	<i>Acer japonicum</i>		○	○	○

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(11) 確認種 (植物: 現地調査) (11/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期				
				春季	初夏	夏季	秋季	
401	ムクロジ	イロハモジ	<i>Acer palmatum</i>		○			
402		エンコウカエデ	<i>Acer pictum</i> ssp. <i>dissectum</i>	○	○	○	○	
403		ウラケエンコウカエデ	<i>Acer pictum</i> ssp. <i>dissectum</i> f. <i>connivens</i>	○		○	○	
404		オニタヤ	<i>Acer pictum</i> ssp. <i>pictum</i> f. <i>ambiguum</i>				○	
405		ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i>	○	○	○	○	
406		コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i>	○	○			
407	ミカン	コクサキ	<i>Orixa japonica</i>		○	○		
408		カラスサンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> var. <i>ailanthoides</i>	○	○	○	○	
409		サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	○	○	○	○	
410		イヌサンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i> var. <i>schinifolium</i>		○	○	○	
411	ニガキ	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i>	○	○			
412		ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i>	○				
413	アオイ	シナキ	<i>Tilia japonica</i> var. <i>japonica</i>	○				
414	アブラナ	ヤマハダサオ	<i>Arabis hirsuta</i>	○	○	○		
415		ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>	○				
416		コンロンソウ	<i>Cardamine leucantha</i>	○		○		
417		タネツケバナ	<i>Cardamine occulta</i>	○	○	○		
418		イヌナスナ	<i>Draba nemorosa</i>			○		
419		マメグサハハスナ	<i>Lepidium virginicum</i>		○	○		
420		オランダカラシ	<i>Nasturtium officinale</i>				○	
421		イヌカラシ	<i>Rorippa indica</i>		○	○	○	
422		スカシタゴボウ	<i>Rorippa palustris</i>	○	○	○	○	
423		ヒヤクダン	ツクバネ	<i>Buckleya lanceolata</i>		○	○	○
424			カナヒキソウ	<i>Thesium chinense</i>		○		
425		タデ	ソバ	<i>Fagopyrum esculentum</i>		○		○
426	ケイトリ		<i>Fallopia japonica</i> var. <i>uzenensis</i>	○	○	○	○	
427	ミスヒキ		<i>Persicaria filiformis</i>	○	○	○	○	
428	ヤナギヌカホ		<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>			○	○	
429	ヤナギタデ		<i>Persicaria hydropiper</i>		○	○	○	
430	オオイヌタデ		<i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>lapathifolia</i>		○	○	○	
431	イヌタデ		<i>Persicaria longiseta</i>		○	○	○	
432	ヤノネグサ		<i>Persicaria muricata</i>			○		
433	イシミカリ		<i>Persicaria perfoliata</i>		○		○	
434	ハナタデ		<i>Persicaria posumbu</i>				○	
435	アキノウナギツカミ		<i>Persicaria sagittata</i> var. <i>sibirica</i>	○	○	○	○	
436	ミツソバ		<i>Persicaria thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	○	○	○	○	
437	ミチヤナギ		<i>Polygonum aviculare</i> ssp. <i>aviculare</i>		○	○	○	
438	ハイミチヤナギ		<i>Polygonum aviculare</i> ssp. <i>depressum</i>		○			
439	スイハ		<i>Rumex acetosa</i>	○	○		○	
440	ナガバギシギシ		<i>Rumex crispus</i>			○	○	

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(12) 確認種 (植物: 現地調査) (12/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期				
				春季	初夏	夏季	秋季	
441	タデ	ギンギン	<i>Rumex japonicus</i>		○			
442		エゾノギンギン	<i>Rumex obtusifolius</i>	○	○	○	○	
443	ナデシコ	ノミノツヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> var. <i>serpyllifolia</i>	○	○			
444		ミミナグサ	<i>Cerastium fontanum</i> ssp. <i>vulgare</i> var. <i>angustifolium</i>	○				
445		オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>	○	○			
446		ノハラナデシコ	<i>Dianthus armeria</i>		○	○		
447		イヌコモチナデシコ	<i>Petrorhagia dubia</i>		○	○		
448		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>		○	○		
449		ムシトリナデシコ	<i>Silene armeria</i>		○			
450		フシグロ	<i>Silene firma</i>				○	
451		ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	○	○		○	
452		コハコベ	<i>Stellaria media</i>	○	○	○	○	
453		ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>	○				
454		ノミノスマ	<i>Stellaria uliginosa</i> var. <i>undulata</i>	○				
455		ヒユ	イノツヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>		○	○	○
456			ヒナタイノツヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>		○	○	
457	ホリアオゲイトウ		<i>Amaranthus hybridus</i>				○	
458	シロザ		<i>Chenopodium album</i> var. <i>album</i>		○	○	○	
459	ゴウシユウアリタリウ		<i>Dysphania pumilio</i>		○			
460	ヤマコホウ	ヨウシュヤマコホウ	<i>Phytolacca americana</i>		○	○	○	
461	サクロソウ	クルマバサクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i>			○	○	
462	スベリヒユ	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>			○	○	
463	ミズギ	ウリキ	<i>Alangium platanifolium</i> f. <i>macrophyllum</i>				○	
464		ミズギ	<i>Cornus controversa</i> var. <i>controversa</i>	○	○	○	○	
465		ヤマホウシ	<i>Cornus kousa</i> ssp. <i>kousa</i>	○	○	○	○	
466		クマノミズギ	<i>Cornus macrophylla</i>	○	○		○	
467	アジサイ	ツルアジサイ	<i>Calypttranthe petiolaris</i>	○		○	○	
468		ノリウツギ	<i>Heteromalla paniculata</i>	○		○		
469		エゾアジサイ	<i>Hortensia cuspidata</i>	○				
470		イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i>	○	○	○	○	
471	ツリフネソウ	ツリフネソウ	<i>Impatiens textorii</i>		○	○		
472	カキノキ	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i> var. <i>kaki</i>			○		
473	サクラソウ	ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	○	
474		オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>	○	○	○	○	
475		ヌマトラノオ	<i>Lysimachia fortunei</i>			○		
476		コナシ	<i>Lysimachia japonica</i>	○	○	○		
477		クサレタマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> ssp. <i>davurica</i>		○	○		
478		ハイノキ	サワフタギ	<i>Symplocos sawafutagi</i>	○	○	○	○
479	エゴノキ	エゴノキ	<i>Styrax japonicus</i>	○	○	○	○	
480	マタヒ	サルナシ	<i>Actinidia arguta</i> var. <i>arguta</i>	○	○	○	○	

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和5年度版-」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(13) 確認種 (植物: 現地調査) (13/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期				
				春季	初夏	夏季	秋季	
481	マタタビ	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>		○	○	○	
482	リョウブ	リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i>	○	○	○	○	
483	ツツジ	ウメカサソウ	<i>Chimaphila japonica</i>				○	
484		ホツツジ	<i>Elliottia paniculata</i>			○		
485		アブラツツジ	<i>Enkianthus subsessilis</i> var. <i>subsessilis</i>		○			
486		ハナヒリノキ	<i>Leucothoe grayana</i> var. <i>grayana</i>		○		○	
487		ギンリョウソウ	<i>Monotropastrum humile</i>		○			
488		イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	○	
489		ヤマツツジ	<i>Rhododendron kaempferi</i> var. <i>kaempferi</i>	○	○	○	○	
490		レンゲツツジ	<i>Rhododendron molle</i> ssp. <i>japonicum</i>	○	○	○	○	
491		ハライツツジ	<i>Rhododendron semibarbatum</i>			○		
492		ウスノキ	<i>Vaccinium hirtum</i> var. <i>pubescens</i>	○	○	○	○	
493		ナツハゼ	<i>Vaccinium oldhamii</i>	○	○	○	○	
494		アオキ	アオキ	<i>Aucuba japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	○
495		アカネ	シラホシムグラ	<i>Galium aparine</i>	○			
496			ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	○			
497	ヨツバムグラ		<i>Galium trachyspermum</i>	○	○	○	○	
498	オククルマムグラ		<i>Galium trifloriforme</i>	○				
499	ツルアリトオシ		<i>Mitchella undulata</i>		○			
500	ヘクソカズラ		<i>Paederia foetida</i>	○	○	○	○	
501	アカネ		<i>Rubia argyi</i>	○	○	○	○	
502	リンドウ	ベニバナセンブリ	<i>Centaurium erythraea</i>		○	○		
503		リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> var. <i>buergeri</i>		○		○	
504		フデリンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i>			○		
505		アケボノソウ	<i>Swertia bimaculata</i>				○	
506		センブリ	<i>Swertia japonica</i>				○	
507		ツルリンドウ	<i>Tripterospermum japonicum</i>	○	○	○	○	
508		キョウチクトウ	イケマ	<i>Cynanchum caudatum</i>		○	○	
509	カガイモ		<i>Metaplexis japonica</i>		○	○	○	
510	オオカモメヅル		<i>Vincetoxicum aristolochioides</i>		○	○	○	
511	スズサイコ		<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>			○		
512	コハナカモメヅル		<i>Vincetoxicum sublanceolatum</i>			○		
513	ヒルガオ	ヒルガオ	<i>Calystegia pubescens</i>	○	○	○		
514	ナス	クコ	<i>Lycium chinense</i>				○	
515		イカホズキ	<i>Physalisstrum echinatum</i>		○			
516		ヒヨドリシヨウコ	<i>Solanum lyratum</i>	○	○	○		
517		イヌホズキ	<i>Solanum nigrum</i>			○		
518		アメリカイヌホズキ	<i>Solanum ptychanthum</i>			○	○	
519	ムラサキ	キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>	○				
520	モクセイ	アオダモ	<i>Fraxinus lanuginosa</i> f. <i>serrata</i>	○	○	○	○	

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(14) 確認種 (植物: 現地調査) (14/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
521	モクセイ	マルバアオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>	○	○	○	○
522		トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	○			
523		イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i> ssp. <i>obtusifolium</i>	○	○	○	○
524	オオハコ	サワトウガラシ	<i>Deinostema violaceum</i>			○	
525		オオハコ	<i>Plantago asiatica</i> var. <i>asiatica</i>	○	○	○	○
526		ハラオオハコ	<i>Plantago lanceolata</i>	○	○	○	○
527		オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	○	○		
528		タチイヌフクグリ	<i>Veronica arvensis</i>	○	○		
529		フラスハソウ	<i>Veronica hederifolia</i>	○			
530		オオイヌフクグリ	<i>Veronica persica</i>	○	○		○
531		コマノハグサ	ビロードモウズイカ	<i>Verbascum thapsus</i>	○	○	○
532	アゼナ	タケトアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> ssp. <i>dubia</i>			○	○
533		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>			○	○
534	シソ	ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	○
535		ヤマムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>	○			
536		クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	○	○	○	○
537		クルマバナ	<i>Clinopodium coreanum</i> ssp. <i>coreanum</i>		○		
538		トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>		○		
539		イヌトウバナ	<i>Clinopodium micranthum</i> var. <i>micranthum</i>			○	○
540		カキトウシ	<i>Glechoma hederacea</i> ssp. <i>grandis</i>	○	○	○	○
541		ヤマハッカ	<i>Isodon inflexus</i>	○	○		○
542		ヒキオコシ	<i>Isodon japonicus</i>			○	
543		カマハヒキオコシ	<i>Isodon umbrosus</i> var. <i>leucanthus</i>				○
544		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>				○
545		ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>	○			
546		コシロネ	<i>Lycopus cavaleriei</i>			○	
547		シロネ	<i>Lycopus lucidus</i>		○	○	
548		ヒメシロネ	<i>Lycopus maackianus</i>		○	○	○
549		ラショウモンカズラ	<i>Meehania urticifolia</i>	○	○	○	○
550		ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>				○
551		イヌコウジュ	<i>Mosla scabra</i>				○
552		シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>				○
553		ウツボグサ	<i>Prunella vulgaris</i> ssp. <i>asiatica</i>		○	○	
554	ミヤマタムソウ	<i>Salvia lutescens</i> var. <i>crenata</i>	○	○	○	○	
555	キハナアキギリ	<i>Salvia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>		○	○	○	
556	ヤマタツナミソウ	<i>Scutellaria pekinensis</i> var. <i>transitra</i>		○	○		
557	イヌコマ	<i>Stachys aspera</i> var. <i>hispidula</i>			○		
558	ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>			○		
559	ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> var. <i>miquelianum</i>			○		
560	サギゴケ	ムラサキシキブゴケ	<i>Mazus miquelii</i>	○	○		

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和5年度版-」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(15) 確認種 (植物: 現地調査) (15/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
561	サギゴケ	トキリハセ	<i>Mazus pumilus</i>		○		
562	ハエトクソウ	ハエトクソウ	<i>Phryma nana</i>		○		
563		ナカハハエトクソウ	<i>Phryma oblongifolia</i>		○	○	○
564	キリ	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i>	○	○	○	
565	ハマウツボ	ママコナ	<i>Melampyrum roseum</i> var. <i>japonicum</i>		○	○	
566		コシオカマ	<i>Phtheirospermum japonicum</i>				○
567		ヒキヨモギ	<i>Siphonostegia chinensis</i>		○	○	
568	キツネノマコ	キツネノマコ	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>procumbens</i>				○
569	ノウセウカスラ	キササゲ	<i>Catalpa ovata</i>		○		
570	ハナイカタ	ハナイカタ	<i>Helwingia japonica</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	
571	モチノキ	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i> var. <i>crenata</i>	○	○	○	○
572		アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>	○	○	○	○
573		ウメトギ	<i>Ilex serrata</i>		○	○	○
574	キキョウ	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	○
575		ヤマホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>hondoensis</i>		○		
576		ツルニンジン	<i>Codonopsis lanceolata</i>		○		○
577		ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>		○	○	
578		タニキキョウ	<i>Peracarpa carnosa</i> var. <i>carnosa</i>	○			
579		キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i>			○	○
580	キク	オクモシジハクマ	<i>Ainsliaea acerifolia</i> var. <i>subapoda</i>	○	○	○	○
581		キッコウハクマ	<i>Ainsliaea apiculata</i>	○	○	○	○
582		フタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>				○
583		オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>		○	○	○
584		カラヨモギ	<i>Artemisia capillaris</i>	○	○	○	○
585		ヨモギ	<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>	○	○	○	○
586		オトコヨモギ	<i>Artemisia japonica</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>		○	○	○
587		イヌヨモギ	<i>Artemisia keiskeana</i>	○	○	○	○
588		ゴマナ	<i>Aster glehnii</i>				○
589		ユウガキク	<i>Aster iinumae</i>		○	○	○
590		シロヨメナ	<i>Aster leiophyllus</i> var. <i>leiophyllus</i>				○
591		ノコンキク	<i>Aster microcephalus</i> var. <i>ovatus</i>		○	○	○
592		シラヤマキク	<i>Aster scaber</i>		○	○	○
593		オカラ	<i>Atractylodes ovata</i>		○	○	○
594		コハノセンダングサ	<i>Bidens bipinnata</i>				○
595		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>		○	○	○
596		コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>		○	○	○
597		ヤブタバコ	<i>Carpesium abrotanoides</i>		○		
598		コヤブタバコ	<i>Carpesium cernuum</i>				○
599		ガクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i> var. <i>divaricatum</i>			○	
600	サジガクビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>		○	○	○	

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和5年度版-」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(16) 確認種 (植物: 現地調査) (16/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
601	キク	トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>		○		
602		タキハヒメアザミ	<i>Cirsium amplexifolium</i>				○
603		ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>		○	○	
604		クアアザミ	<i>Cirsium pendulum</i>		○		
605		オキクイキク	<i>Coreopsis lanceolata</i>		○		
606		ハルシヤキク	<i>Coreopsis tinctoria</i>			○	
607		コスモス	<i>Cosmos bipinnatus</i>		○	○	
608		ヤクソウ	<i>Crepidiastrum denticulatum</i>		○	○	○
609		ダントホロキク	<i>Erechtites hieraciifolius</i> var. <i>hieraciifolius</i>				○
610		ヒメジヨオン	<i>Erigeron annuus</i>		○	○	○
611		ヒメカシヨモキ	<i>Erigeron canadensis</i>			○	○
612		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>		○	○	○
613		ヘバヒメジヨオン	<i>Erigeron strigosus</i>			○	
614		オアレチキク	<i>Erigeron sumatrensis</i>			○	
615		サワヒヨドリ	<i>Eupatorium lindleyanum</i>				○
616		オヒヨドリバナ	<i>Eupatorium makinoi</i> var. <i>oppositifolium</i>		○	○	○
617		ハキタメキク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>			○	○
618		ウラジロチコグサ	<i>Gamochaeta coarctata</i>			○	○
619		チコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>		○		○
620		キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>		○		
621		ブタナ	<i>Hypochaeris radicata</i>		○	○	○
622		ニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>dentatum</i>		○	○	
623		ハニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>		○	○	○
624		オシシバリ	<i>Ixeris japonica</i>		○	○	○
625		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>		○	○	○
626		アキノナゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>			○	○
627		ヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elata</i>				○
628		ヤブタバコ	<i>Lapsanastrum humile</i>			○	
629		センボンヤリ	<i>Leibnitzia anandria</i>				○
630		ムラサキニガナ	<i>Paraprenanthes sororia</i>			○	○
631		イストウナ	<i>Parasenecio aidzuensis</i>		○	○	○
632		モミジガサ	<i>Parasenecio delphiniifolius</i>				○
633		タマブキ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>bulbiferus</i>		○	○	○
634		ナカハノコウヤボウキ	<i>Pertya glabrescens</i>			○	
635		オヤリハグマ	<i>Pertya trilobata</i>		○	○	○
636		フキ	<i>Petasites japonicus</i> var. <i>japonicus</i>		○	○	○
637		コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>		○	○	○
638		コウリンタンポポ	<i>Pilosella aurantiaca</i>		○		
639		ハイコウリンタンポポ	<i>Pilosella officinarum</i>		○	○	○
640		ハハコグサ	<i>Pseudognaphalium affine</i>		○	○	○

※: 種名, 学名及び分類順等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(17) 確認種 (植物: 現地調査) (17/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
641	キク	オハコソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	○		○	○
642		ハコソウ	<i>Senecio cannabifolius</i>		○		
643		ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>		○		
644		タムソウ	<i>Serratula coronata</i> ssp. <i>insularis</i>	○			
645		コナモミ	<i>Sigesbeckia glabrescens</i>				○
646		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	○	○	○	○
647		オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> ssp. <i>serotina</i>				○
648		アキノキリンソウ	<i>Solidago virgaurea</i> ssp. <i>asiatica</i> var. <i>asiatica</i>	○	○	○	○
649		オノゲシ	<i>Sonchus asper</i>	○	○	○	○
650		ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	○	○	○	○
651		ヒロハホウキギク	<i>Symphotrichum subulatum</i> var. <i>squamatum</i>			○	○
652		ヤブレガサ	<i>Syneilesis palmata</i>	○	○	○	○
653		オヤマホウチ	<i>Synurus pungens</i>		○	○	○
654		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	○	○	○	○
655		エゾタンポポ	<i>Taraxacum venustum</i> ssp. <i>venustum</i>	○			
656		サワオグルマ	<i>Tephrosieris pierotii</i>	○			
657		オオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>	○			○
658		アオオニシラコ	<i>Youngia japonica</i> ssp. <i>elstonii</i>	○	○		
659		アオオニシラコ	<i>Youngia japonica</i> ssp. <i>japonica</i>	○	○		
660	ウコギ	ウド	<i>Aralia cordata</i>				○
661		タラノキ	<i>Aralia elata</i>	○	○	○	○
662		コシアブラ	<i>Chengiopanax sciadophylloides</i>	○	○	○	○
663		ヤマウコギ	<i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>spinosus</i>	○	○	○	○
664		キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	○	○	○	○
665		オオチトメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	○	○	○	○
666		ハリギリ	<i>Kalopanax septemlobus</i> ssp. <i>septemlobus</i>	○	○	○	○
667		トチバニンジン	<i>Panax japonicus</i>	○	○	○	
668	セリ	ノタケ	<i>Angelica decursiva</i>	○	○	○	○
669		シヤク	<i>Anthriscus sylvestris</i>	○	○		
670		セントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i>	○			
671		ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>		○	○	○
672		ノニンジン	<i>Daucus carota</i> ssp. <i>carota</i>	○			○
673		セリ	<i>Oenanthe javanica</i> ssp. <i>javanica</i>	○	○	○	○
674		ヤブニンジン	<i>Osmorhiza aristata</i> var. <i>aristata</i>	○			
675		ウマノミツバ	<i>Sanicula chinensis</i>	○			
676		カノツメソウ	<i>Spuriopimpinella calycina</i>		○	○	○
677		ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>		○		
678		オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>	○	○	○	
679	ガマズミ	ニトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>	○	○	○	○
680		ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	○	○	○	○

※: 種名, 学名及び分類等は, 「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和5年度版ー」(国土交通省)に準拠した。

表 6.11.1-7(18) 確認種 (植物：現地調査) (18/18)

No.	科名	種名*	学名	確認時期			
				春季	初夏	夏季	秋季
681	ガマスミ	オトコウツメ	<i>Viburnum phlebotrichum</i>	○	○	○	○
682		ミヤマガマスミ	<i>Viburnum wrightii</i> var. <i>wrightii</i>	○	○	○	○
683	スイカズラ	ツクハネツギ	<i>Abelia spathulata</i> var. <i>spathulata</i>	○	○	○	○
684		ヤマウケイソウ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>gracilipes</i>	○	○	○	○
685		スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	○	○	○	○
686		オミナシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i>			○	
687		オトコシ	<i>Patrinia villosa</i>		○	○	○
688		タニツギ	<i>Weigela hortensis</i>	○	○		○
-	125 科	688 種	-	342 種	488 種	461 種	439 種

※：種名，学名及び分類順等は，「河川水辺の国勢調査のための生物リスト—令和5年度版—」（国土交通省）に準拠した。

## ② 植生の状況

調査結果に基づき作成した植生図は図 6.11.1-3, 群落組成調査地点は図 6.11.1-4, 群落組成表は表 6.11.1-8, 群落別面積一覧表は表 6.11.1-9, 植物群落概要表は表 6.11.1-10(1)～(17)に示すとおりである。

現地調査の結果, 調査範囲の群落及び土地利用形式は 22 区分となった。

調査範囲は宮城県の東部に位置し, 標高は約 30～100m である。調査範囲においては, ブナクラス域代償植生, ヤブツバキクラス域代償植生, 植林地, 耕作地植生に位置している。しかし, コナラ群落及びアカマツ群落等の二次林, スギ植林等の代償植生や造成地等の人的利用地が面積の約 8 割を占めている。

調査範囲内の植生分布をみると, 対象事業実施区域内はコナラ群落, スギ植林が分布しており, 造成地の周囲では, ススキ群落やセイタカアワダチソウ群落が確認された。対象事業実施区域外では, コナラ群落, スギ植林が広く分布し, 南側にはアカマツ群落が確認された他, 北側及び東側に位置する太陽光発電, 造成地の周辺では対象事業実施区域内と同様にススキ群落やセイタカアワダチソウ群落が確認された。

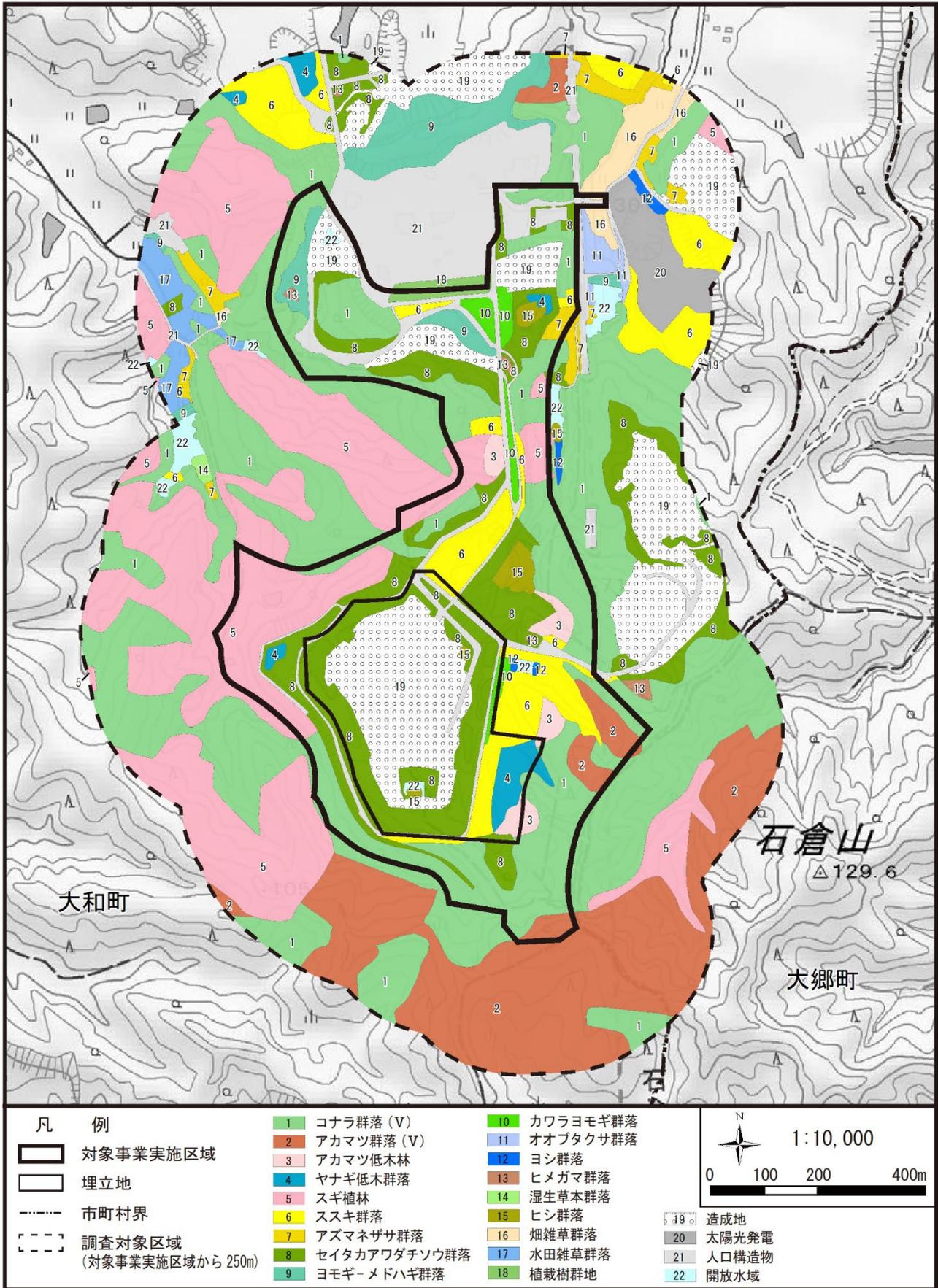


図 6.11.1-3 植生図

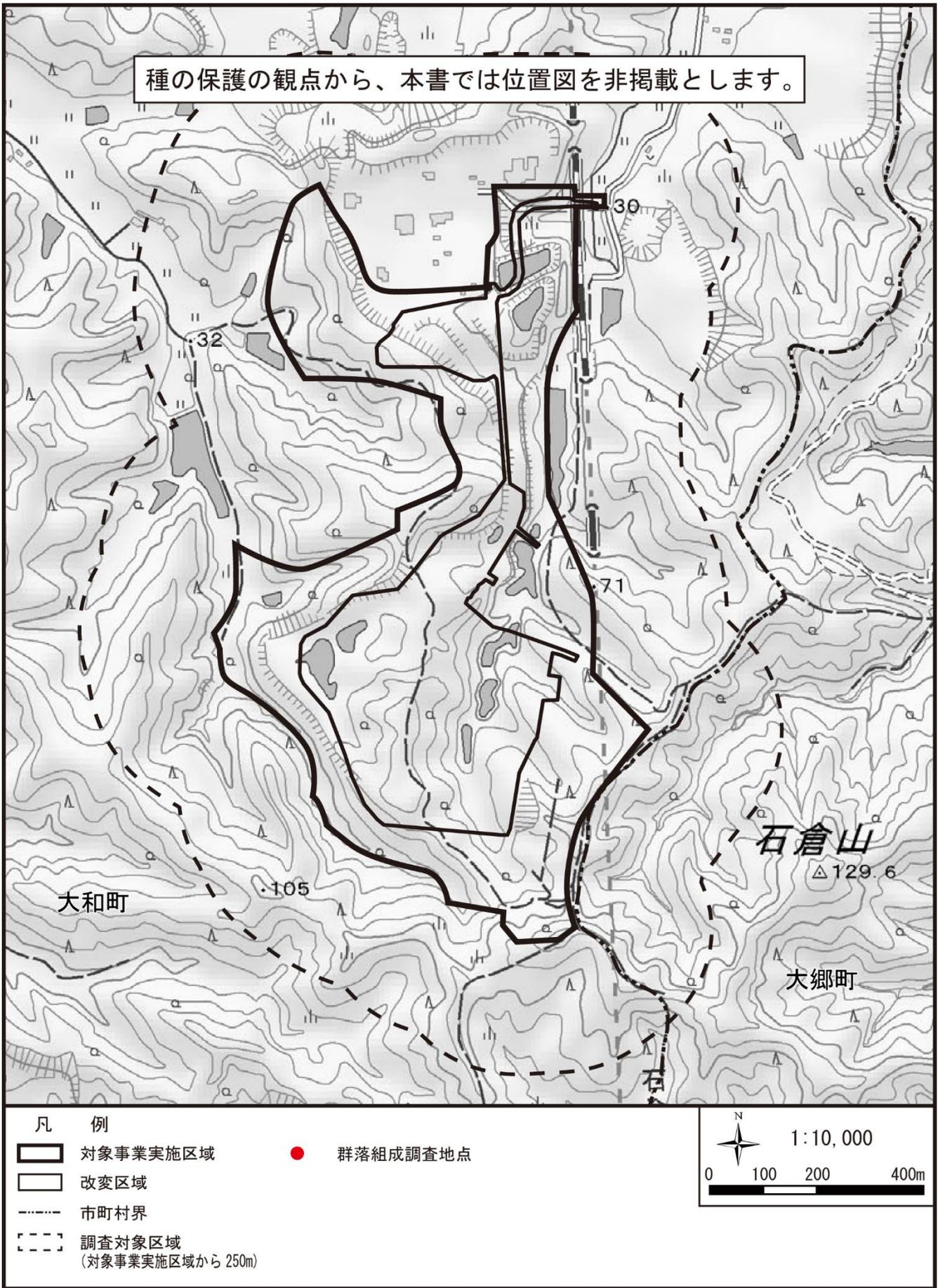


図 6.11.1-4 群落組成調査地点位置図

表 6.11.1-8 群落組成表（群落別の群落高及び階層別主要構成種）

No.	植物群落名	群落組成調査地点番号	群落高(m)	主要構成種
1	コナラ群落 (V)	Q02, Q08, Q10, Q14, Q21	12~17	高木層：コナラ 亜高木層：モミ, リョウブ, エゴノキ, アカシデ 低木層：アズマネザサ, リョウブ 草本層：アズマネザサ, ヤマツツジ, イツヌゲ
2	アカマツ群落 (V)	Q23	20	高木層：アカマツ, ヤマザクラ, コナラ 亜高木層：コナラ 低木層：イヌツゲ, ウワミズザクラ 草本層：イヌツゲ, マルバアオダモ, ヤマツツジ
3	アカマツ低木林	Q11	6	低木層：アカマツ 草本層：ススキ, セイタカアワダチソウ, メドハギ, クズ, ヒメジョオン, イネ科
4	ヤナギ低木群落	Q15	6.5	亜高木層：シロヤナギ 低木層：イヌコリヤナギ, シロヤナギ 草本層：セイタカアワダチソウ
5	スギ植林	Q03, Q09, Q20	18~21	高木層：スギ 亜高木層：スギ 低木層：ウリハダカエデ, ハシバミ 草本層：リョウメンシダ, アオキ
6	ススキ群落	Q19	3	草本層：ススキ, チガヤ
7	アズマネザサ群落	Q06	3	草本層：アズマネザサ, クズ
8	セイタカアワダチソウ群落	Q22	1.4	草本層：セイタカアワダチソウ, メドハギ
9	ヨモギーメドハギ群落	Q04	1	草本層：メドハギ, メマツヨイグサ, ヨモギ
10	カワラヨモギ群落	Q17	0.5	草本層：カワラヨモギ, マルバヤハズソウ
11	オオブタクサ群落	Q05	2.5	草本層：オオブタクサ, クズ
12	ヨシ群落	Q12	2.5	草本層：ヨシ, クサヨシ
13	ヒメガマ群落	Q18	2.3	草本層：ヒメガマ, アブラガヤ, カンガレイ
14	湿生草本群落	Q13	2	草本層：ウキヤガラ, ショウブ
15	ヒシ群落	Q16	0.65	草本層：ヒシ, ヒルムシロ
16	畑雑草群落	Q01	0.3	草本層：スギナ, コニシキソウ
17	水田雑草群落	Q07	0.8	草本第一層：イネ 草本第二層：ツユクサ
18	植栽樹群地	—	—	—
19	造成地	—	—	—
20	太陽光発電	—	—	—
21	人口構造物	—	—	—
22	解放水域	—	—	—

※：群落組成調査地点番号は、図 6.11.1-4 に対応している。

表 6.11.1-9 群落別面積一覧表

No.	群落名	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		調査範囲	
		面積 (ha)	占有率 (%)	面積 (ha)	占有率 (%)	面積 (ha)	占有率 (%)
1	コナラ群落 (V)	15.76	26.08	41.85	31.44	57.59	29.77
2	アカマツ群落 (V)	1.61	2.67	19.81	14.88	21.42	11.07
3	アカマツ低木林	1.34	2.22	0.00	0.00	1.34	0.69
4	ヤナギ低木群落	1.10	1.82	0.45	0.34	1.55	0.80
5	スギ植林	5.81	9.62	29.04	21.82	34.85	18.01
6	ススキ群落	4.85	8.04	4.73	3.56	9.59	4.96
7	アズマネザサ群落	0.23	0.38	1.82	1.37	2.05	1.06
8	セイタカアワダチソウ群落	12.14	20.09	3.67	2.76	15.81	8.17
9	ヨモギメドハギ群落	1.10	1.82	3.57	2.68	4.67	2.41
10	カワラヨモギ群落	1.01	1.67	0.00	0.00	1.01	0.52
11	オオブタクサ群落	0.00	0.00	0.64	0.48	0.64	0.33
12	ヨシ群落	0.06	0.10	0.26	0.20	0.32	0.17
13	ヒメガマ群落	0.12	0.20	0.15	0.11	0.27	0.14
14	湿生草本群落	0.00	0.00	0.14	0.11	0.14	0.07
15	ヒシ群落	0.77	1.28	0.06	0.04	0.83	0.43
16	畑雑草群落	0.05	0.09	1.78	1.34	1.83	0.95
17	水田雑草群落	0.00	0.00	1.59	1.20	1.59	0.82
18	植栽樹群地	0.33	0.55	0.30	0.22	0.63	0.33
19	造成地	9.07	15.02	9.15	6.88	18.23	9.42
20	太陽光発電	0.00	0.00	2.67	2.00	2.67	1.38
21	人工構造物	4.84	8.02	10.28	7.73	15.13	7.82
22	開放水域	0.21	0.34	1.11	0.84	1.32	0.68
合計		60.40	100.00	133.08	100.00	193.48	100.00

※：面積は群落ごとに四捨五入しているため、合計が合わない。

表 6.11.1-10(1) 植物群落概要表 (コナラ群落(V))

植生図凡例	コナラ群落 (V)
群落組成調査地点	Q02, Q08, Q10, Q14, Q21
模式断面図	Q02
群落概要	コナラが優占する落葉高木群落であり、低地から山地にかけて広く成立する。里山の代表的な二次林である。
分布状況	対象事業実施区域内外に広く分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 12~17m で、高木層にはコナラが優占する他、亜高木層にはモミ、リョウブ、エゴノキ、アカシデ等がみられた。低木層にはアズマネザサリョウブ等がみられ、草本層にはアズマネザサ、ヤマツツジ、イヌツゲ等がみられた。確認種数は 27~36 種であった。

表 6.11.1-10(2) 植物群落概要表 (アカマツ群落 (V))

植生図凡例	アカマツ群落 (V)
群落組成調査地点	Q23
模式断面図	Q23
群落概要	アカマツが優占する常緑針葉高木群落で、丘陵の土壤が乾燥した立地に成立する。
分布状況	対象事業実施区域内と、対象事業実施区域外に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 20m で、高木層にはアカマツ、ヤマザクラ、コナラ等がみられ、亜高木層にはコナラが優占していた。低木層にはイヌツゲ、ウワミズザクラ等がみられ、草本層にはイヌツゲ、マルバアオダモ、ヤマツツジ等がみられた。確認種数は 34 種であった。



表 6.11.1-10(4) 植物群落概要表 (ヤナギ低木群落)

植生図凡例	ヤナギ低木林
群落組成調査地点	Q15
模式断面図	Q15
群落概要	シロヤナギが優占する落葉高木群落で、河川敷や湿地などに成立する。
分布状況	対象事業実施区域内外に点在していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 6.5m で、高木層にはシロヤナギが優占し、低木層にはイヌコリヤナギ、シロヤナギ等がみられた。草本層にはセイトカアワダチソウが優占していた。確認種数は 11 種であった。

表 6.11.1-10(5) 植物群落概要表 (スギ植林)

植生図凡例	スギ植林
群落組成調査地点	Q03, Q09, Q20
模式断面図	Q20
群落概要	常緑針葉樹のスギの植林。木材生産目的で自然植生を切り開いて植栽された代償植生群落である。一般的にスギは沢筋の斜面などの、土壌の深い湿性立地に植林される。
分布状況	対象事業実施区域内 [redacted] に分布し、対象事業実施区域外には広く分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 18～21m で、高木層及び亜高木層にはスギが優占し、低木層にはウリハダカエデ、ハシバミ等がみられた。草本層にはリョウメンシダ、アオキ等がみられた。確認種数は 29～48 種であった。

表 6.11.1-10(6) 植物群落概要表 (ススキ群落)

植生図凡例	ススキ群落
群落組成調査地点	Q19
模式断面図	Q19
群落概要	ススキが優占する多年生草本群落で、山野や伐採跡地、古い法面、造成地等にも二次草原として成立する。
分布状況	対象事業実施区域内と、対象事業実施区域外[ ]に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 3m で、草本層にはススキ、チガヤ等がみられた。確認種数は 17 種であった。

表 6.11.1-10(7) 植物群落概要表 (アズマネザサ群落)

植生図凡例	アズマネザサ群落
群落組成調査地点	Q06
模式断面図	Q06
群落概要	アズマネザサが優占するタケ群落で、低山や丘陵地に広く成立する。
分布状況	対象事業実施区域内と、対象事業実施区域外に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約3mで、草本層にはアズマネザサ、クズ等がみられた。確認種数は7種であった。

表 6.11.1-10(8) 植物群落概要表 (セイトカアワダチソウ群落)

植生図凡例	セイトカアワダチソウ群落
群落組成調査地点	Q22
模式断面図	Q22
群落概要	北米原産のセイトカアワダチソウが優占する外来種草原である。数年を経た土地改変を受けた場所や、耕作放棄地など各所に成立する。乾燥地からやや湿性の立地まで幅広く適応する。
分布状況	対象事業実施区域内に広く分布し、対象事業実施区域外 [redacted] に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 1.4m で、草本層にはセイトカアワダチソウ、メドハギ等がみられた。確認種数は 11 種であった。

表 6.11.1-10(9) 植物群落概要表 (ヨモギ-メドハギ群落)

植生図凡例	ヨモギ-メドハギ群落
群落組成調査地点	Q04
模式断面図	Q04
群落概要	メドハギが優占する陽地性の多年草群落である。河川沿いに成立する。
分布状況	対象事業実施区域内と、対象事業実施区域外に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 1m で、草本層にはメドハギが優占する他、メマツヨイグサやヨモギが生育していた。確認種数は 8 種であった。

表 6.11.1-10(10) 植物群落概要表 (カワラヨモギ群落)

植生図凡例	カワラヨモギ群落
群落組成調査地点	Q17
模式断面図	Q17
群落概要	カワラヨモギが優先する低茎草地。河川の砂礫地に成立する。
分布状況	対象事業実施区域内 <span style="background-color: black; color: black;">          </span> に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 0.5m で、草本層にはカワラヨモギ、マルバヤハズソウ等がみられた。確認種数は 10 種であった。

表 6.11.1-10(11) 植物群落概要表 (オオブタクサ群落)

植生図凡例	オオブタクサ群落
群落組成調査地点	Q05
模式断面図	Q05
群落概要	オオブタクサが優占する外来種草原である。
分布状況	対象事業実施区域外[ ]に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 2.5m で、草本層にはオオブタクサ、クズ等がみられた。確認種数は 7 種であった。

表 6.11.1-10(12) 植物群落概要表 (ヨシ群落)

植生図凡例	ヨシ群落
群落組成調査地点	Q12
模式断面図	Q12
群落概要	ヨシが優占する湿地性の多年生草本群落で、湖沼や河川、湿地に成立する。水田放棄地、河畔の造成地等富栄養化した湿性にも成立する。
分布状況	対象事業実施区域内外に点在していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 2.5m で、草本層にはヨシ、クサヨシ等がみられた。確認種数は 9 種であった。

表 6.11.1-10(13) 植物群落概要表 (ヒメガマ群落)

植生図凡例	ヒメガマ群落
群落組成調査地点	Q18
模式断面図	Q18
群落概要	ヒメガマが優占する群落。
分布状況	対象事業実施区域内外に点在していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 2.3m で、草本層にはヒメガマが優占する他、アブラガヤ、カンガレイ等がみられた。確認種数は 4 種であった。

表 6.11.1-10(14) 植物群落概要表 (湿生草本群落)

植生図凡例	湿生草本群落
群落組成調査地点	Q13
模式断面図	Q13
群落概要	ウキヤガラが優占する抽水性の多年生草本群落で、池沼や河川、水路に成立する。
分布状況	対象事業実施区域外に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約2mで、草本層にはウキヤガラ、ショウブ等がみられた。確認種数は14種であった。

表 6.11.1-10(15) 植物群落概要表 (ヒシ群落)

植生図凡例	ヒシ群落
群落組成調査地点	Q16
模式断面図	Q16
群落概要	ヒシが優占する浮葉植物群落で、中～富栄養な池などに成立する。
分布状況	対象事業実施区域内外に点在していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 0.65m で、草本層にはヒシ、ヒルムシロがみられた。確認種数は 2 種であった。

表 6.11.1-10(16) 植物群落概要表 (畑雑草群落)

植生図凡例	畑雑草群落
群落組成調査地点	Q01
模式断面図	Q01
群落概要	畑地に成立する，陽地性の低茎草本で構成された群落である。
分布状況	対象事業実施区域内外 ████████ に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 0.3m で，草本層にはスギナ，コニシキソウが生育していた。確認種数は 10 種であった。

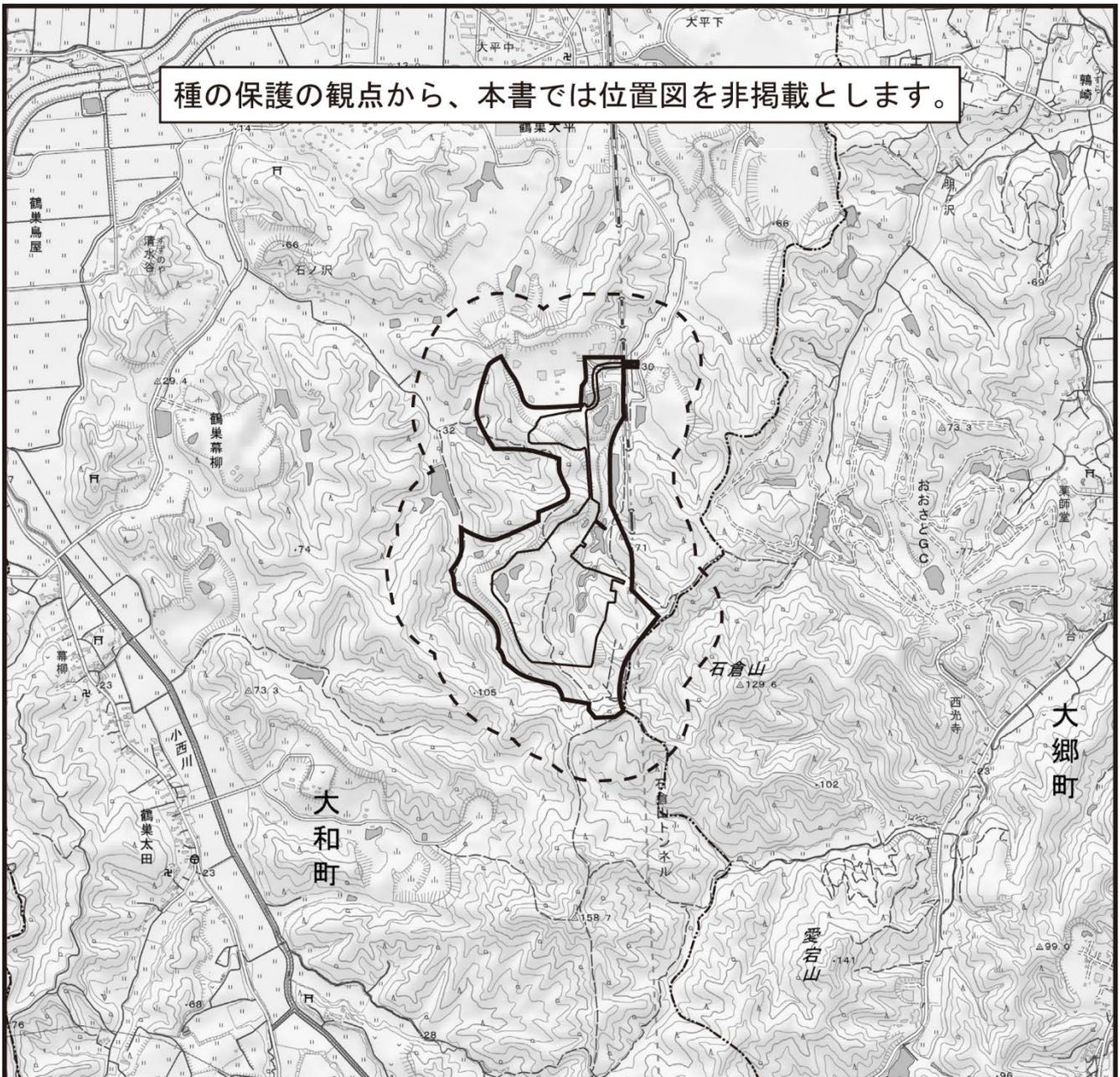
表 6.11.1-10(17) 植物群落概要表 (水田雑草群落)

植生図凡例	水田雑草群落
群落組成調査地点	Q07
模式断面図	Q07
群落概要	水田に成立する、湿潤な環境を好む草本類から構成された群落である。
分布状況	対象事業実施区域外 ████████ に分布していた。
群落構造・組成	今回調査を行った地点の群落高は約 0.8m で、草本層にはイネ、ツユクサ等がみられた。確認種数は 8 種であった。



表 6.11.1-12 重要種の選定基準

選定基準	カテゴリー	説明
(I) 『文化財保護法』(昭和25年法律第214号)	特天	『文化財保護法』(昭和25年法律第214号)における特別天然記念物
	天	『文化財保護法』(昭和25年法律第214号)における天然記念物
(II) 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成4年法律第75号)	国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成4年法律第75号)における国内希少野生動植物
	国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成4年法律第75号)における国際希少野生動植物
(III) 『環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020』(環境省, 2020年3月)の掲載種	EX	絶滅
	EW	野生絶滅
	CR+EN	絶滅危惧I類
	CR	絶滅危惧IA類
	EN	絶滅危惧IB類
	VU	絶滅危惧II類
	NT	準絶滅危惧
	DD	情報不足
(IV) 『宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト2024年版—』(宮城県, 令和6年3月)の掲載種	EX	絶滅
	EW	野生絶滅
	CR+EN	絶滅危惧I類
	VU	絶滅危惧II類
	NT	準絶滅危惧
	DD	情報不足
	LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	要	要注目種



種の保護の観点から、本書では位置図を非掲載とします。

凡 例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 市町村界
- 調査対象区域（対象事業実施区域から 250m）
- 重要な植物種の確認位置（春季）
- 重要な植物種の確認位置（初夏季）
- 重要な植物種の確認位置（夏季）
- 重要な植物種の確認位置（秋季）

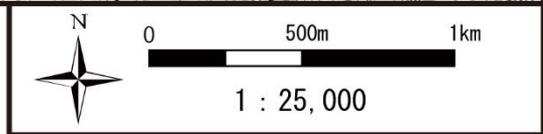


図 6.11.1-5 重要な植物種の確認位置図（全季）

表 6.11.1-13(1) 重要な植物種の特性及び確認状況（ホソバイヌワラビ）

種名		ホソバイヌワラビ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	—	宮城県レッドリスト	NT
種の特性 (※)	全国分布	本州，四国，九州の冷温帯から暖温帯。		
	形態	葉身は長楕円形，3回羽状。葉面は薄黄緑色で，やや硬い草質。羽軸，小羽軸表面に刺状の毛がある。生育の良い葉では，葉身上部の軸に無性芽を付けることがある。		
	生育場所	沢筋の岩や礫の多い湿った場所に生育。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	1	1
	初夏調査及び秋季調査において，対象事業実施区域外に生育していることを確認した。			

※「レッドデータブック東京 2013 ～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」(東京都，2013年)

表 6.11.1-13(2) 重要な植物種の特性及び確認状況（イトモ）

種名		イトモ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	NT
種の特性 (※)	全国分布	北海道～沖縄県。		
	形態	葉は細く，糸状で長さ2～4cm，幅約1mm。葉の内側に茎を抱くように托葉があり，葉の反対側で重なり合うが，合着していない。果実は長さ約1.8mm。花期は6～8月。		
	生育場所	池や流水中。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	2	■	1	■
	夏季調査及び秋季調査において，■に多数生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類」(平凡社，1982年)

「OUTDOOR GRAPHICS 野草大図鑑」(北隆館，1990年)

表 6.11.1-13(3) 重要な植物種の特性及び確認状況（キンセイラン）

種名		キンセイラン		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	VU	宮城県レッドリスト	CR+EN
種の特性 (※)	全国分布	北海道～九州(宮崎県)。		
	形態	葉は広披針。側花弁は線状広披針形。距は長さ約 5mm。偽球茎は球状で連珠状に並ぶ。葉は 3～5 個つき、広披針形で、長さ 15～30cm。花茎は高さ 30～50cm、上部には子房とともに短毛がある。6～7 月、まばらに淡黄緑色の花を 5～12 個つける。		
	生育場所	深山の林縁に生育。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数
	0	0	12	31
	通期にわたって、対象事業実施区域外に多数生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(平凡社, 1982 年)

「レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物 I (維管束植物)」(環境省, 2015 年)

表 6.11.1-13(4) 重要な植物種の特性及び確認状況（エビネ属）

種名		エビネ属 (エビネ, キンセイラン, ナツエビネ, サルメンエビネ)		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT*1/VU*2	宮城県レッドリスト	VU*1/CR+EN*2
種の特性 (※)	全国分布	【エビネ】北海道(西南部)～沖縄県。 【ナツエビネ】本州～九州。 【サルメンエビネ】北海道～九州。		
	形態	【エビネ】地下に連なった偽球茎がある。葉は長さ 15～40cm で縦じわのある長楕円形。花期は 4～5 月で、高さ 20～40cm の花茎に 8～15 花をつける。花被片が紫褐色で唇弁が淡紅紫色のもの、花被片が淡緑色で唇弁が白色のものなど変化に富む。 【ナツエビネ】偽球茎は球状。葉は 3～5 個が束生し、狭長楕円形で、長さ 10～30cm。花茎は基部の葉腋より出て、高さ 20～40cm。7～8 月、淡紫色 10～20 花をまばらに総状につける。 【サルメンエビネ】偽球茎は球状。葉は 3～4 個、倒卵状狭長楕円形、長さ 15～25cm。花茎は高さ 30～50cm、花序、子房とともに短毛がある。花は 4～5 月、7～15 花を総状にまばらにつける。萼片、側花弁ともに黄緑色。		
	生育場所	【エビネ】雑木林の下に生育。 【ナツエビネ】やや湿った落葉樹林下。 【サルメンエビネ】ブナ帯落葉樹林下。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数
	2	5	2	27
	通期にわたって、対象事業実施区域内及び区域外に多数生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(平凡社, 1982 年)

「レッドデータブック 東京 2013 ～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」(東京都, 2013 年)

「レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物 I (維管束植物)」(環境省, 2015 年)

キンセイランの種の特性は、表 6.11.1 13(3)参照。

\*1 エビネが該当

\*2 キンセイラン, ナツエビネ, サルメンエビネが該当

表 6.11.1-13(5) 重要な植物種の特性及び確認状況（ジガバチソウ）

種名		ジガバチソウ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	—	宮城県レッドリスト	NT
種の特性 (※)	全国分布	北海道～九州。		
	形態	葉は基部に2枚、広卵形、長さ3～8cm、網目模様がはっきりし、縁が波打つ。花茎は高さ8～20cm。花期は5～7月で、10～20個の花をつける。花は淡緑色または紫褐色で、萼片、側花弁は線状、唇弁は狭倒卵形で、暗紫褐色の縦筋が入り、中ほどで下方に折れる。		
	生育場所	山地樹林下。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	1	2
	初夏季調査において、対象事業実施区域外に生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類」（平凡社、1982年）

「レッドデータブック東京2013 ～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」(東京都、2013年)

表 6.11.1-13(6) 重要な植物種の特性及び確認状況（ジョウロウスゲ）

種名		ジョウロウスゲ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	VU	宮城県レッドリスト	VU
種の特性 (※)	全国分布	北海道・本州（関東以北）。		
	形態	茎は株を作り、高さ40～70cm、葉は硬く、幅4～6mm。頂小穂は雄性で線形。側小穂は雌性で、3～5個あって互いに接近してつき、長楕円形で長さ1.5～3cm。密に多数の果胞をつける。果胞は平開し、長さ7～9mm。5～7月に熟す。		
	生育場所	水湿地。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	5	64
	初夏季調査及び夏季調査において、対象事業実施区域外に多数生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類」（平凡社、1982年）

「レッドデータブック2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物Ⅰ（維管束植物）」(環境省、2015年)

表 6.11.1-13(7) 重要な植物種の特性及び確認状況（ヒメコヌカグサ）

種名		ヒメコヌカグサ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	NT
種の特性 (※)	全国分布	本州（関東以西）～九州。		
	形態	根茎が短く、茎は単生状となり、高さ40～70cmで平滑。長さ7～15cmの扁平な葉を数枚付ける。円錐状の花序は枝がざらつき、小穂をまばらに付ける。小花が苞穎よりやや大きい点で他種と区別できる。花期は6月。		
	生育場所	半日陰の湿地に生育。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	1	4
	春季調査において、対象事業実施区域外に生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類」（平凡社、1982年）

「レッドデータブック東京2013 ～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」(東京都、2013年)

表 6.11.1-13(8) 重要な植物種の特性及び確認状況（タコノアシ）

種名		タコノアシ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	NT
種の特性 (※)	全国分布	本州～奄美大島。		
	形態	高さは30～110cmの多年草。根茎をのばし、不定根を生じる。茎は通常分枝しない。葉はやや多肉質、狭披針形で、淵には細鋸歯がある。花期は8～9月で花序は頂生するが、上部の葉腋から生じることもある。花序の枝は3～8個。それぞれの枝に1列の花をつけ、あたかもタコが足を広げたように見える。花は直径3～5mm、萼片は三角形、長さ約1.5mm、花弁は通常ない。雄しべは10個。心皮は5～7個が合着する。		
	生育場所	川原、泥湿原地。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	1	6	2	34
	夏季調査及び秋季調査において、対象事業実施区域内及び区域外に多数生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類」（平凡社、1982年）

「ヤマケイ情報箱 レッドデータプランツ」（山と溪谷社、平成15年）

表 6.11.1-13(9) 重要な植物種の特性及び確認状況（ヤナギヌカボ）

種名		ヤナギヌカボ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	VU	宮城県レッドリスト	NT
種の特性 (※)	全国分布	北海道，本州，九州。		
	形態	茎の下部は斜めに倒れ，上部は斜上して枝を分け，高さ 30～60cm になる。葉は長披針形～長線形。長さ 3～9cm。托葉鞘は筒状，長さ 5～10mm。花期は 9～10 月。総状花序は細く，やや密に花をつけ，頂生及び腋生で，直立。萼は 5 裂し，淡紅色。		
	生育場所	湿地。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	1	20	0	0
	夏季調査及び秋季調査において，対象事業実施区域内に生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」（平凡社，1982 年）

「レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物 I（維管束植物）」（環境省，2015 年）

表 6.11.1-13(10) 重要な植物種の特性及び確認状況（スズサイコ）

種名		スズサイコ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	VU
種の特性 (※)	全国分布	北海道～九州。		
	形態	茎は細いが直立し，高さ 40～100cm になる。葉は対生し，無柄で，斜上する。葉身は幅 1.5cm 以下の長披針形～線状長楕円形でやや厚い。花は 7～8 月に咲き，上部の葉腋や茎頂に集散花序をつける。		
	生育場所	日当たりよいやや乾いた草地。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	2	5
	夏季調査において，対象事業実施区域外に生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」（平凡社，1982 年）

「ヤマケイ情報箱 レッドデータプランツ」（山と溪谷社，平成 15 年）

表 6.11.1-13(11) 重要な植物種の特性及び確認状況（キキョウ）

種名		キキョウ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	VU	宮城県レッドリスト	NT
種の特性 (※)	全国分布	北海道～九州，奄美大島。		
	形態	太い根茎は深く地中に入り，茎は高さ 50～100cm。葉は狭卵形で長さ 4～7cm。花は 7～8 月，茎頂近くに数個つき，花冠は径 4～5cm，青紫色であるが，淡紫色や白色のものもある。		
	生育場所	山地の草地。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	3	6	0	0
	夏季調査及び秋季調査において，対象事業実施区域内に生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」（平凡社，1982 年）

「レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物 I（維管束植物）」（環境省，2015 年）

表 6.11.1-13(12) 重要な植物種の特性及び確認状況（ムラサキニガナ）

種名		ムラサキニガナ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	—	宮城県レッドリスト	NT
種の特性 (※)	全国分布	本州～九州。		
	形態	高さ 60～120cm。花は 6～8 月，頭花は径 1cm。茎は中空，無毛で直立する。茎の下部にでる葉はふつう，羽状に裂けているが上部の葉はしだいに皮針状となる。下部の葉の基部はくさび型に柄に流れないで心形で湾入してから狭翼となって柄につく傾向がある。そう果は線状長楕円形である。		
	生育場所	山林の縁。		
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	7	30
	初夏季調査及び秋季調査において，対象事業実施区域外に多数生育していることを確認した。			

※「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」（平凡社，1982 年）

「OUTDOOR GRAPHICS 野草大図鑑」（北隆館，1990 年）

## 2) 重要な植物群落

現地調査の結果、対象事業実施区域及びその周辺の調査範囲内において、「第3回自然環境保全基礎調査」(環境庁, 1989年)で指定されている特定植物群落や「宮城県の希少な野生動植物—宮城県レッドリスト 2024年版—」(宮城県, 令和6年)に掲載された植物群落は存在しなかった。

## 6.11.2 予測

### (1) 最終処分場の設置の工事（造成等の工事による一時的な影響）及び最終処分場の存在

#### (7) 予測内容

予測内容は、最終処分場の設置の工事（造成等の工事による一時的な影響）及び最終処分場の存在による植物への影響（①事業による影響の整理，②重要な植物種及び植物群落の分布，生育の状況及び生育環境の変化）とした。

#### (4) 予測地域等

予測地域等は調査地域と同様とした（表 6.11.1-4 及び図 6.11.1-1 参照）。

#### (5) 予測対象時期

予測対象時期は、工事による影響が最大となる時期及び施設の供用後、定常的な状態になる時期とした。

#### (I) 予測方法

##### ① 事業による影響の整理

事業が重要な植物種及び植物群落に与える影響の伝播経路を、「事業の影響要因」→「環境要素の変化」→「重要な植物種及び植物群落の変化」の観点で整理するものとした。

##### ② 重要な植物種及び植物群落の分布，生育の状況及び生育環境の変化

土地の改変範囲と重要な植物種及び植物群落の分布図を重ね合わせ，生育地や群落の消失の有無を把握することにより予測するものとした。非改変区域については，大気汚染，水の濁り，光環境の変化や改変区域との境界付近の環境の変化から影響を予測するものとした。

(オ) 予測結果

① 事業による影響の整理

事業による影響を整理した結果は、表 6.11.2-1 に示すとおりである。

表 6.11.2-1 事業による影響の整理結果（植物）

	工事の実施	土地又は工作物の存在及び供用
事業の影響要因	最終処分場の設置の工事 ＜造成等の工事による一時的な影響＞	最終処分場の存在
環境要素の変化	・濁水の発生による水環境の変化 ・土工事による土地の改変	・日照条件や水分条件の変化
重要な植物種及び植物群落の変化	・周辺の水域における生育環境の変化 ・改変区域に生育する植物種及び植物群落の消失	・改変区域及びその周辺の生育環境の変化

② 重要な植物種及び植物群落の分布、生育の状況及び生育環境の変化

1) 重要な植物種

現地調査で確認された重要な植物種について、事業が及ぼす影響を表 6.11.2-2(1)～(12)に示すとおり、影響要因の区分ごとに予測した。

表 6.11.2-2(1) 重要な植物種への予測影響結果（ホソバイヌワラビ）

種名		ホソバイヌワラビ				
選定基準	文化財保護法	—		種の保存法	—	
	環境省レッドリスト	—		宮城県レッドリスト	NT	
現地確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外			
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数		
	0	0	1	1		
	初夏調査及び秋季調査において、対象事業実施区域外に生育していることを確認した。					
予測結果	改変区域内		改変区域外			
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数		
	0	0	1	1		
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、本種の生育環境は水辺ではないことから、濁水が発生した場合でも生育環境への影響はないものと予測する。				
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、確認地点はいずれも改変区域から十分離れた林内であることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。				

表 6.11.2-2(2) 重要な植物種への予測影響結果（イトモ）

種名		イトモ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	NT
現地確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	2	■	1	■
夏季調査及び秋季調査において、■多数生育していることを確認した。				
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	3	池内散生
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、濁水が発生した場合でも、本種の確認地点である■は、■であり、最終処分場の設置の工事により環境が大きく変わるものではないことから、影響は小さいものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられる。道路建設による植生への影響圏が一般的に 10～30m とされており（亀山, 1976*）、改変区域から 30m 以内の地点に生育する個体が確認されているが、直近の改変区域は、現況地形を改変するものではなく、建物が立地するものでもないことから、本種の生育環境への影響は小さいものと予測する。		

\*亀山 章：道路建設による周辺植生への影響—総説—, 応用植物社会学研究, 5号, 75-90, 1976

表 6.11.2-2(3) 重要な植物種への予測影響結果（キンセイラン）

種名		キンセイラン		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	CR+EN
現地確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	12	31
通期にわたって、対象事業実施区域外に多数生育していることを確認した。				
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	12	31
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、本種の生育環境は水辺ではないことから、濁水が発生した場合でも生育環境への影響はないものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、確認地点はいずれも改変区域から十分離れた林内であることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

表 6.11.2-2(4) 重要な植物種への予測影響結果（エビネ属）

種名		エビネ属		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT*1/VU*2	宮城県レッドリスト	VU*1/CR+EN*2
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	2	5	2	27
通期にわたって、対象事業実施区域内及び区域外に多数生育していることを確認した。				
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	4	32
	最終処分場の設置の 工事による影	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、本種の生育環境は水辺ではないことから、濁水が発生した場合でも生育環境への影響はないものと予測する。		
	最終処分場の存在に よる影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、確認地点はいずれも改変区域より標高の高い林内であり、改変区域からも十分離れていることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

\*1 エビネが該当

\*2 キンセイラン、ナツエビネ、サルメンエビネが該当

表 6.11.2-2(5) 重要な植物種への予測影響結果（ジガバチソウ）

種名		ジガバチソウ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	—	宮城県レッドリスト	NT
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	1	2
初夏調査において、対象事業実施区域外に生育していることを確認した。				
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	1	2
	最終処分場の設置の 工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、本種の生育環境は水辺ではないことから、濁水が発生した場合でも生育環境への影響はないものと予測する。		
	最終処分場の存在に よる影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、確認地点は改変区域から十分離れた林内であることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

表 6.11.2-2(6) 重要な植物種への予測影響結果（ジョウロウスゲ）

種名		ジョウロウスゲ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	VU	宮城県レッドリスト	VU
現地確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	5	64
	初夏調査及び夏季調査において、対象事業実施区域外に多数生育していることを確認した。			
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	5	64
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、濁水が発生した場合でも、本種の確認地点である■■■■には、■■■■直接流入するものではないことから、影響は小さいものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響：	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、道路建設による植生への影響圏が一般的に 10～30m とされている（亀山, 1976*）ことや、本種の確認地点である■■■■は、改変区域が集水域外であることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

\*亀山 章：道路建設による周辺植生への影響—総説—, 応用植物社会学研究, 5号, 75-90, 1976

表 6.11.2-2(7) 重要な植物種への予測影響結果（ヒメコヌカグサ）

種名		ヒメコヌカグサ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	NT
現地確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	1	4
	春季調査において、対象事業実施区域外に生育していることを確認した。			
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	1	4
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、濁水が発生した場合でも、本種の確認地点である■■■■には、■■■■直接流入するものではないことから、影響は小さいものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、道路建設による植生への影響圏が一般的に 10～30m とされている（亀山, 1976*）ことや、本種の確認地点である■■■■は、改変区域が集水域外であることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

\*亀山 章：道路建設による周辺植生への影響—総説—, 応用植物社会学研究, 5号, 75-90, 1976

表 6.11.2-2(8) 重要な植物種への予測影響結果（タコノアシ）

種名		タコノアシ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	NT
現地確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	1	6	2	34
夏季調査及び秋季調査において、対象事業実施区域内及び区域外に多数生育していることを確認した。				
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	3	40
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、濁水が発生した場合でも、本種の確認地点である■■■■には、■■■■直接流入するものではないことから、影響は小さいものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、道路建設による植生への影響圏が一般的に 10～30m とされていることから(亀山, 1976*)、事業の実施による日照条件や水分条件の変化はないと考えられる。よって、事業の実施が本種に与える影響はないものと予測する。		

\*亀山 章：道路建設による周辺植生への影響—総説—, 応用植物社会学研究, 5号, 75-90, 1976

表 6.11.2-2(9) 重要な植物種への予測影響結果（ヤナギヌカボ）

種名		ヤナギヌカボ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	VU	宮城県レッドリスト	NT
現地確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	1	20	0	0
夏季調査及び秋季調査において、対象事業実施区域内に生育していることを確認した。				
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	1	20
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、濁水が発生した場合でも、本種の確認地点である■■■■は、改変区域が集水域外であることから濁水や土砂が流入しないため影響は小さいものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、本種の確認地点である■■■■は、改変区域から十分離れていることや、改変区域が集水域外であることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

表 6.11.2-2(10) 重要な植物種への予測影響結果（スズサイコ）

種名		スズサイコ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	NT	宮城県レッドリスト	VU
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	2	5
夏季調査において、対象事業実施区域外に生育していることを確認した。				
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	2	5
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、本種の生育環境は水辺ではないことから、濁水が発生した場合でも生育環境への影響はないものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、確認地点はいずれも改変区域から十分離れていることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

\*亀山 章：道路建設による周辺植生への影響—総説—, 応用植物社会学研究, 5号, 75-90, 1976

表 6.11.2-2(11) 重要な植物種への予測影響結果（キキョウ）

種名		キキョウ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	VU	宮城県レッドリスト	NT
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	3	6	0	0
夏季調査及び秋季調査において、対象事業実施区域内に生育していることを確認した。				
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	3	6
	最終処分場の設置の工事による影響：	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、本種の生育環境は水辺ではないことから、濁水が発生した場合でも生育環境への影響はないものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、道路建設による植生への影響圏が一般的に 10～30m とされている（亀山, 1976*）ことや、本種の確認地点は、改変区域より標高の高い尾根上であることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

\*亀山 章：道路建設による周辺植生への影響—総説—, 応用植物社会学研究, 5号, 75-90, 1976

表 6.11.2-2(12) 重要な植物種への予測影響結果（ムラサキニガナ）

種名		ムラサキニガナ		
選定基準	文化財保護法	—	種の保存法	—
	環境省レッドリスト	—	宮城県レッドリスト	NT
現地確認 状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	7	30
	初夏調査及び秋季調査において、対象事業実施区域外に多数生育していることを確認した。			
予測結果	改変区域内		改変区域外	
	地点数	個体（確認）数	地点数	個体（確認）数
	0	0	7	30
	最終処分場の設置の工事による影響	本種の確認地点は改変区域外であるため、最終処分場の設置の工事による直接的な影響はないものと予測する。また、本種の生育環境は水辺ではないことから、濁水が発生した場合でも生育環境への影響はないものと予測する。		
	最終処分場の存在による影響	最終処分場の存在による生育地の日照条件や水分条件の変化が考えられるが、確認地点はいずれも改変区域から十分離れた林内であることから、本種の生育環境に与える影響はないものと予測する。		

2) 重要な植物群落

重要な植物群落は、対象事業実施区域及びその周辺で確認されなかったため、最終処分場の設置の工事ならびに最終処分場の存在による影響はないものと予測する。

### 6.11.3 環境保全措置

#### (1) 最終処分場の設置の工事（造成等の工事による一時的な影響）

方法書においては、最終処分場の設置の工事（造成等の工事による一時的な影響）に伴う植物への影響に対しては環境保全措置を挙げていないが、最終処分場の設置の工事（造成等の工事による一時的な影響）に伴う植物への影響を可能な限り回避又は低減するため、環境保全措置の検討を行い、以下に示す内容を実施することとした。

表 6.11.3-1 環境保全措置（最終処分場の設置の工事：造成等の工事による一時的な影響）

実施項目	保全措置の種類	実施内容・効果		効果の不確実性・副次的な影響	
仮置き土砂の管理	低減	内容	仮置き土砂は、必要に応じてシート等で覆い粉じんの発散及び濁水発生の抑制の防止に努める。	不確実性	実施状況により効果の程度が変化する。
		効果	粉じんによる陸上植物への影響や、濁水発生による水生及び抽水植物への影響を低減できる。	副次影響	大気質、水質、放射線の量への影響を低減できる。
濁水の流出対策	低減	内容	既存の沈砂池の活用や必要に応じて仮設沈殿槽（ノッチタンクなど）を設置する。	不確実性	降雨量により効果の程度が変化する。
		効果	水生及び抽水植物への影響を、低減できる。	副次影響	水質、動物、放射線の量への影響を低減できる。

#### (2) 最終処分場の存在

方法書においては、最終処分場の存在に伴う植物への影響に対しては環境保全措置を挙げていないが、最終処分場の存在に伴う植物への影響を可能な限り回避又は低減するため、環境保全措置の検討を行い、以下に示す内容を実施することとした。

表 6.11.3-2 環境保全措置（最終処分場の存在）

実施項目	保全措置の種類	実施内容・効果		効果の不確実性・副次的な影響	
変更量の最小化	回避	内容	樹木の伐採は行わずに現況地形等を最大限活用し、変更量の最小化に努める。	不確実性	なし
		効果	植物の生育環境の消失を回避することができる。	副次影響	景観や人と自然との触れ合いの活動の場への影響を回避できる。

#### 6.11.4 評価

##### (1) 最終処分場の設置の工事（造成等の工事による一時的な影響）

###### (7) 環境への影響の回避・低減に係る評価

###### ① 評価手法

最終処分場の設置の工事（造成等の工事による一時的な影響）による植物への影響が、実行可能な範囲内で回避または低減されているかを検討し、その結果を踏まえ、必要に応じてその他の方法により環境保全についての配慮が適正になされているかを検討することにより評価するものとした。

###### ② 評価結果

予測の結果、最終処分場の設置の工事による植物への影響は小さいものと予測された。

また、環境保全措置として、仮置き土砂のシート等による被覆、既存の沈砂池の活用等を行うことにより、植物への影響の低減を図ることから、最終処分場の設置の工事に係る動物への影響は、実行可能な範囲内で回避・低減されていると評価する。

##### (2) 最終処分場の存在

###### (7) 環境への影響の回避・低減に係る評価

###### ① 評価手法

最終処分場の存在による植物への影響が、実行可能な範囲で回避または低減されているかを検討し、その結果を踏まえ、必要に応じてその他の方法により環境保全措置についての配慮が適正になされているかを検討することにより評価するものとした。

###### ② 評価結果

予測の結果、最終処分場の存在による植物への影響はない、または小さいものと予測された。

また、環境保全措置として、変量の最小化を行うことにより、植物への影響の低減を図ることから、最終処分場の存在に係る植物への影響は、実行可能な範囲内で回避・低減されていると評価する。